

安威川ダム周辺整備検討とりまとめ

平成28年3月

大阪府・茨木市

目次

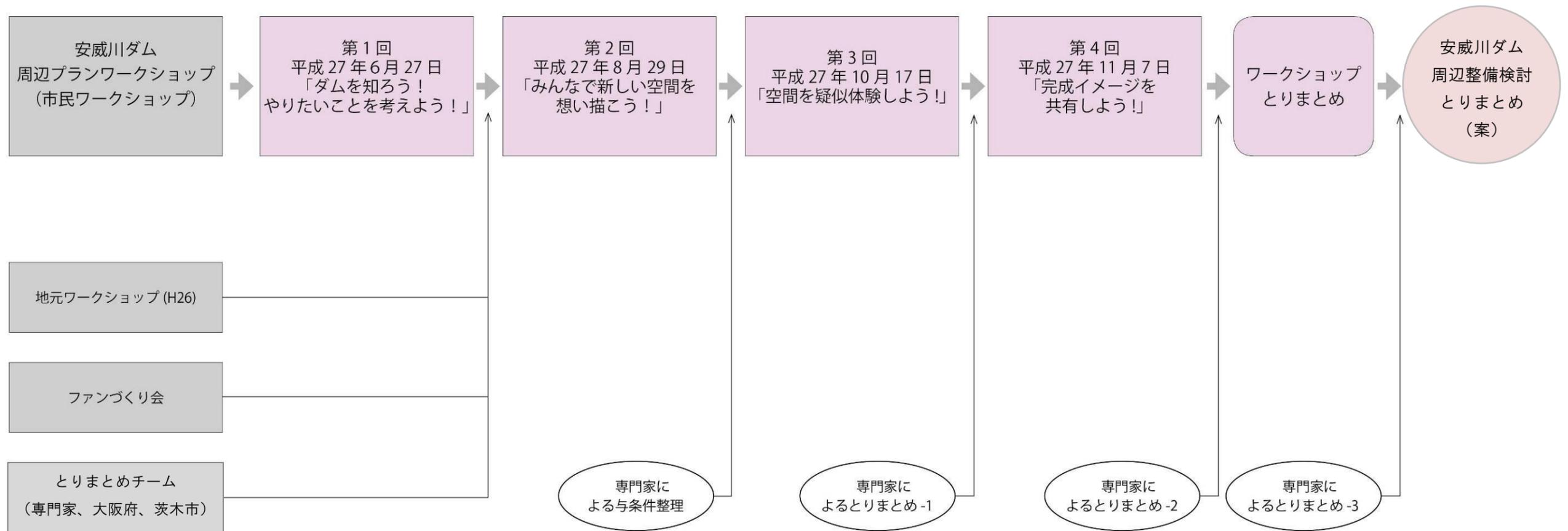
1. 安威川ダム周辺プランワークショップのまとめ	2
(1) ワークショップの概要	
(2) 各ゾーンの空間特性図	
(3) 各ゾーンのパース、およびソフトとハードアイデア	
①パースアングル	
②各パースとソフト・ハードのアイデア	
(4) ワークショップ各回まとめ	
2. 専門家の知見およびアイデアの統合	17
3. 上位計画	20
3.1 安威川ダム周辺整備基本方針（平成21年8月）	20
(1) 基本方針とワークショップの関係性	
(2) 基本方針ゾーニング	
(3) 冠水頻度区分図	
4. 各ゾーンの空間特性と課題整理	23
4.1 ゾーンA：溪谷自然探勝ゾーン（パースアングル①）	24
4.2 ゾーンB：溪流ふれあい体験ゾーン、ゾーンC：里山ふれあい体験ゾーン（パースアングル②）	25
4.3 ゾーンD：湖岸レクリエーションゾーン（パースアングル③④⑤⑧）	27
4.4 ゾーンE：地域振興拠点ゾーン（パースアングル⑥）	35
4.5 ゾーンF：里山自然保全ゾーン（パースアングル⑦）	37
4.6 ゾーンG：ダムのエントランスゾーン、ゾーンH：ダム湖へのアクセスゾーン（パースアングル⑨）	39
4.7 ゾーンI：ダムサイト眺望ゾーン（パースアングル⑩）	40
5. 地元、市民ワークショップ、専門家等が求めるハード、および課題のまとめ	41

1. 安威川ダム周辺プランワークショップまとめ

(1) ワークショップの概要

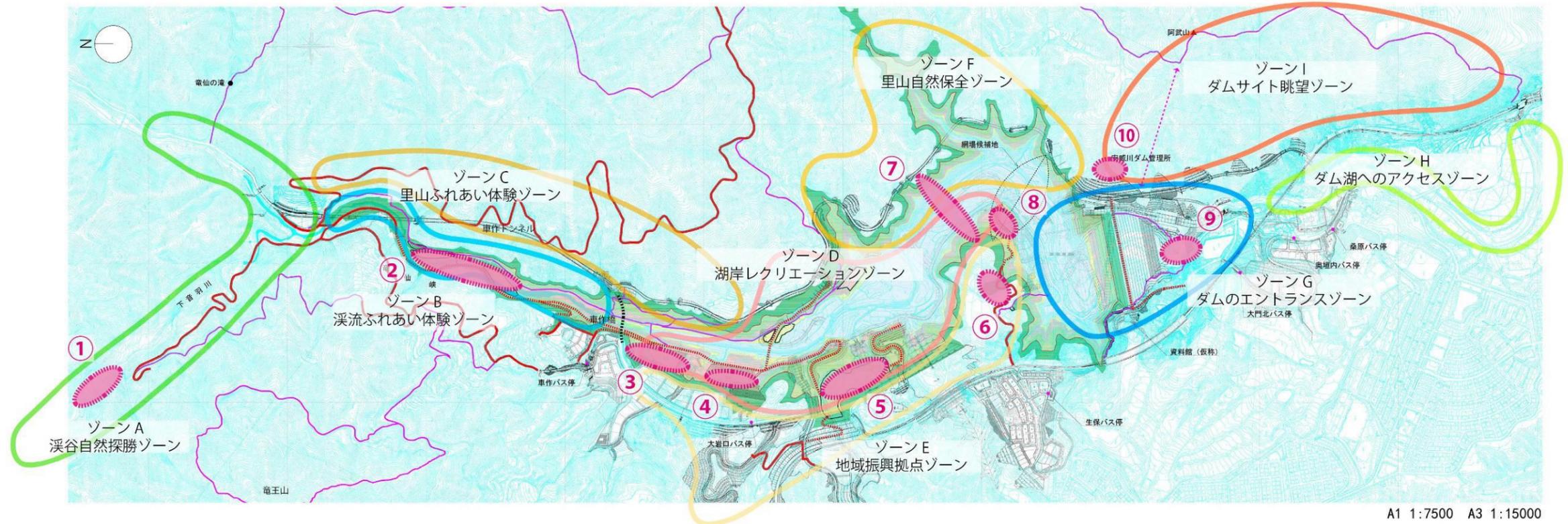
安威川ダム周辺プランワークショップ、地元ワークショップ、ファンづくり会、及びとりまとめチームによる検討を踏まえた本資料とりまとめの流れを以下に示す。

安威川ダム周辺プランワークショップの流れ



(2) 各ゾーンの空間特性図

ワークショップに基づきとりまとめた各ゾーンの空間特性を以下に示す。



①みどりに包まれた権内せせらぎ広場

木々に包まれたせせらぎと、隣接する原っぱを活用した自然を満喫できる広場空間。

②自然を楽しむ学びの川原

水辺の広場を活用し、豊かな水とみどりに出会うことができる親水空間。

③車作橋を望むアウトドアスポーツフィールド

様々なフィールドスポーツを楽しむことができる水辺のプレイグラウンド。

④水辺のオートキャンプサイト

市街地からのアクセス性が良い立地を生かした、手軽に自然を満喫することができるオートキャンプサイト。

⑤湖面を望むレクリエーションパーク

BBQやピクニック、デイキャンプなどファミリーや仲間たちとの交流や、各種祭り・イベントなど多様な活動が可能なレクリエーションパーク。

⑥ビジターセンター前のコモンスペース

拠点施設とともに様々な日常利用や季節のイベント・活動を支えるにぎわいのスペース。

⑦湖面とダムを望むつり橋

ダム周辺エリアの回遊性を高めるとともに、ダムと湖面の風景を水上から楽しむことができる湖面橋。

⑧ダム湖エントリーサイト

拠点施設から湖面へと続くアクセス路と水辺の広場を整備。様々な湖面利用の起点となる水辺のエントリー空間。

⑨ダムを背景とした小川公園

ダム貯水池からの放流水を引き、かつてあった川の流れを再現したせせらぎ公園。

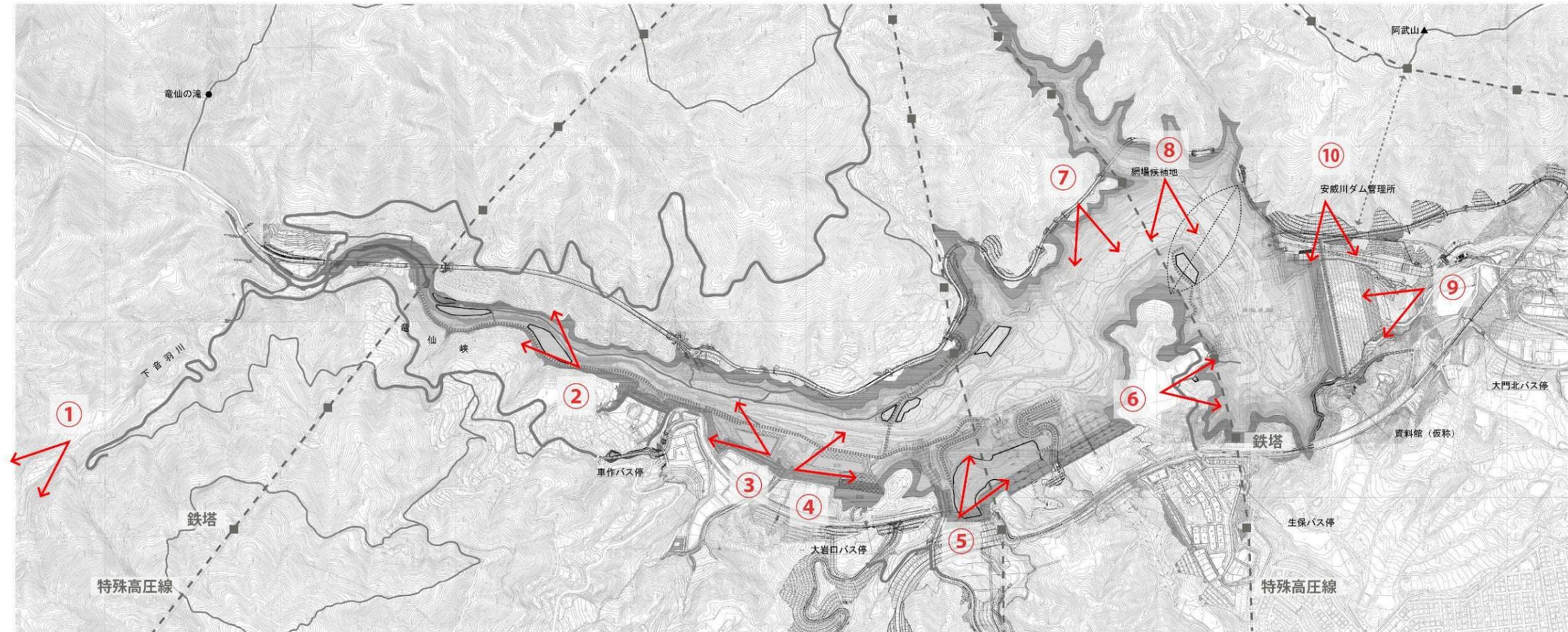
⑩自然遊歩道の眺望スポット

眼下に広がる自然とダム提体を眺望することができる遊歩道沿いの休憩スポット。

(3) 各ゾーンのパス、およびソフトとハードアイデア

各ゾーンに対して出された様々なソフト・ハードのアイデア、およびアイデアに基づいて作成したパスを次頁以降に示す。

① パースアングル



① みどりに包まれた権内せせらぎ広場

② 自然を楽しむ学びの川原

③ 車作橋を望むアウトドアスポーツフィールド

④ 水辺のオートキャンプサイト

⑤ 湖面を望むレクリエーションパーク

⑥ ビジターセンター前のコモンスペース

⑦ 湖面とダムを望むつり橋

⑧ ダム湖エントリーサイト

⑨ ダムを背景とした小川公園

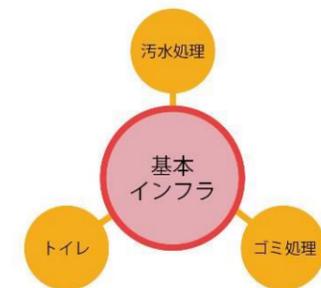
⑩ 自然遊歩道の眺望スポット

②各パースとソフト・ハードのアイデア

①みどりに包まれた権内せせらぎ広場

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

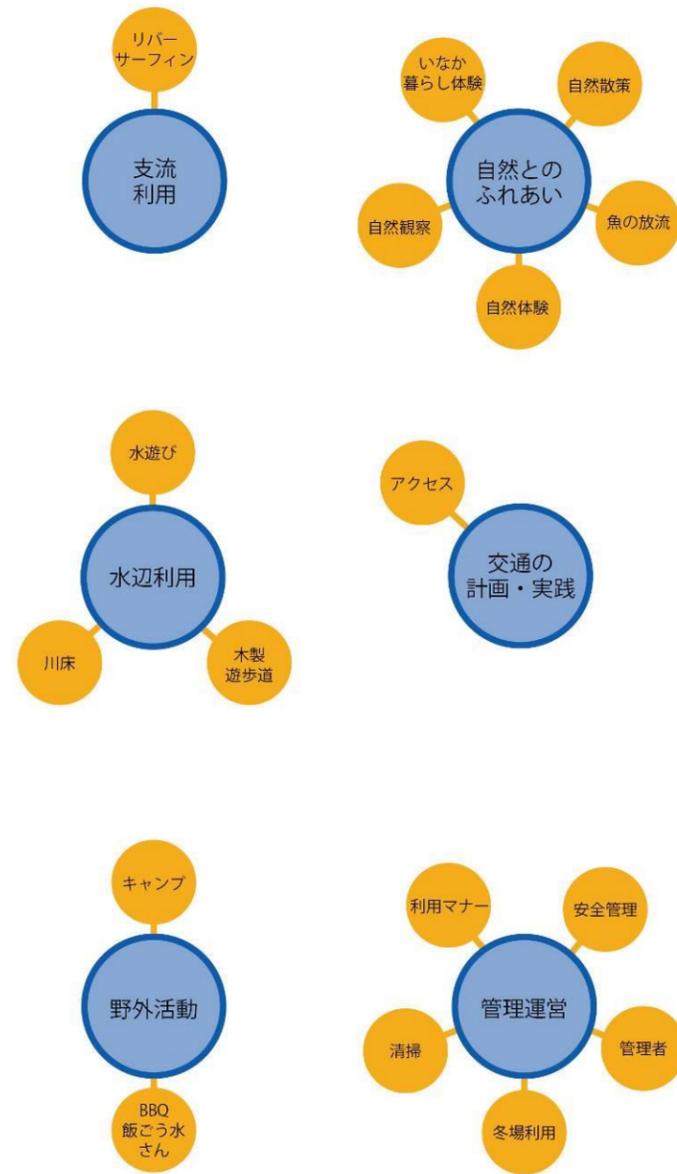
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル



②自然を楽しむ学びの川原

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

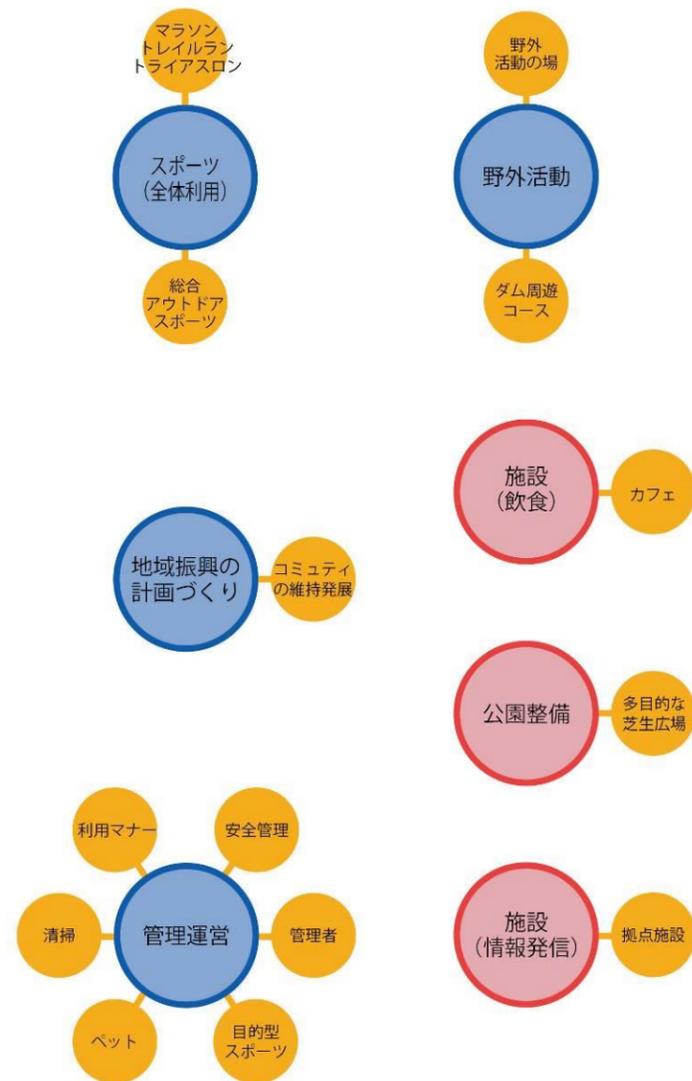
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル ○ その他



③車作橋を望むアウトドアスポーツフィールド

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

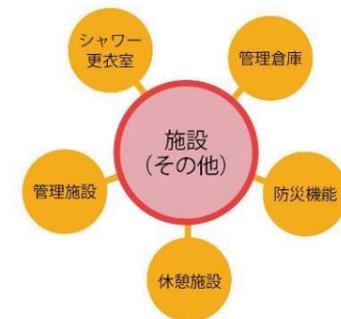
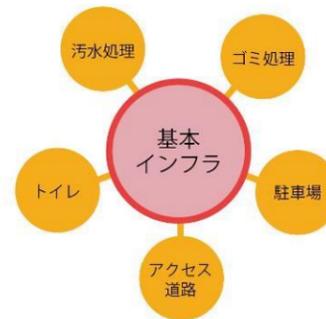
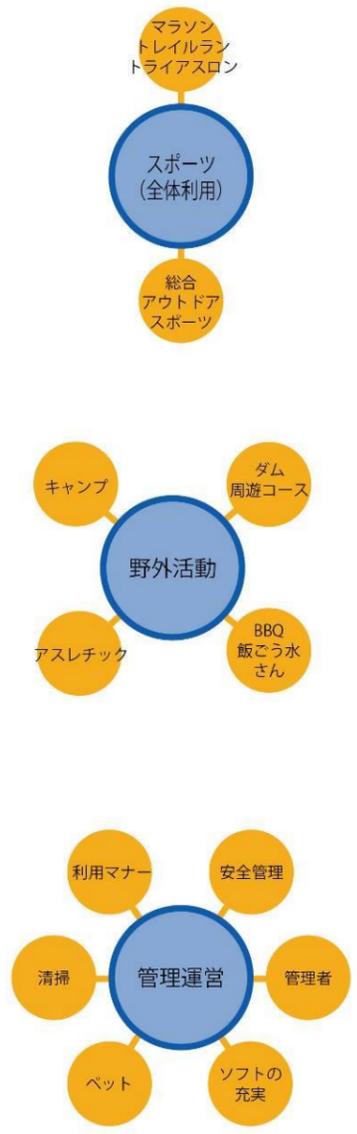
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル ○ その他



④水辺のオートキャンプサイト

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

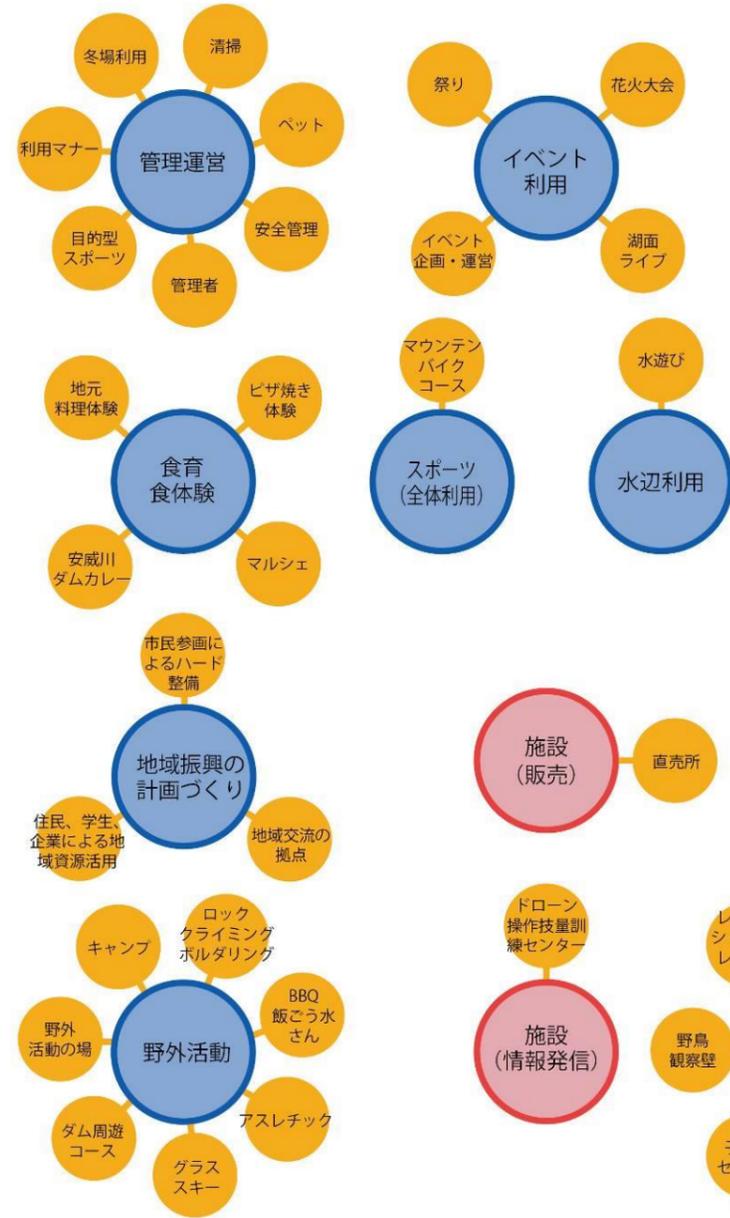
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル



⑤湖面を望むレクリエーションパーク

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

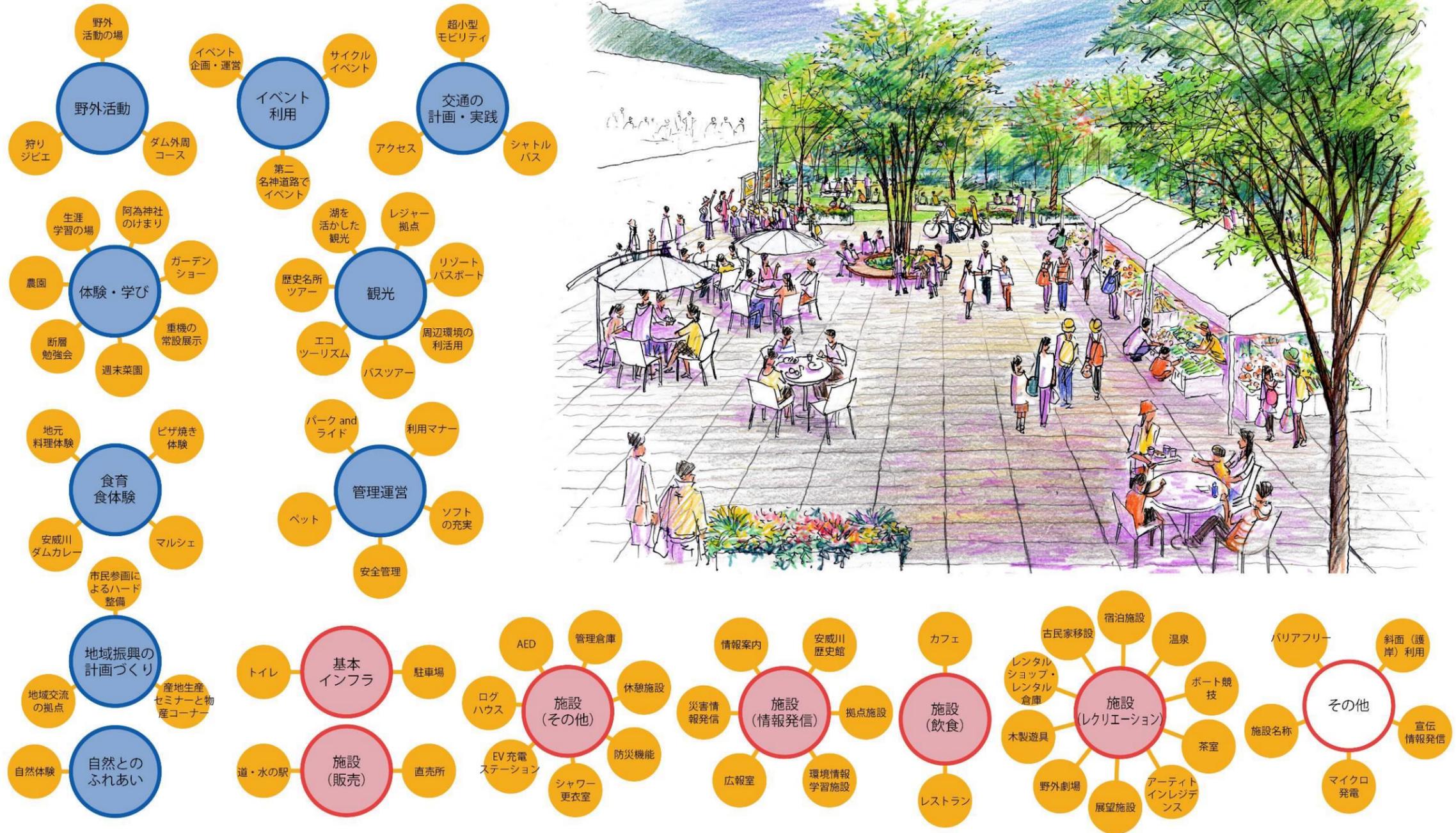
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル



⑥ビジターセンター前のコモンスペース

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

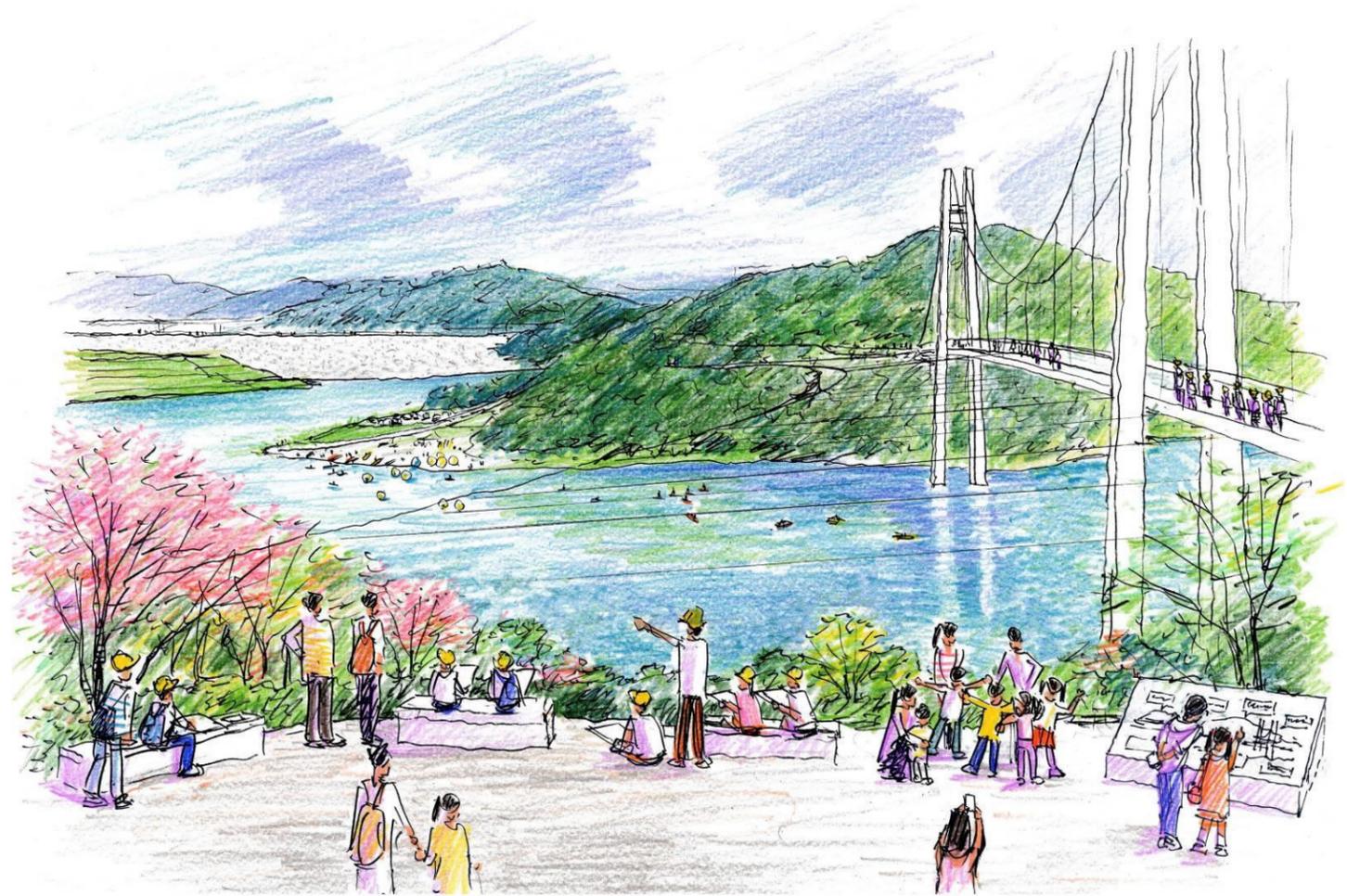
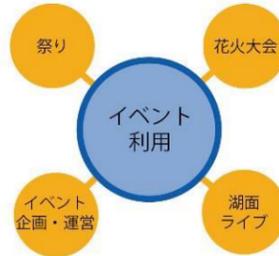
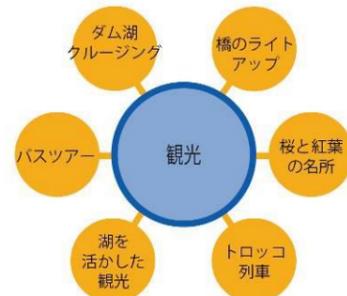
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル ○ その他



⑦湖面とダムを望むつり橋

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

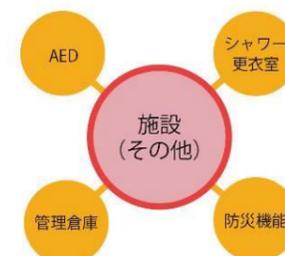
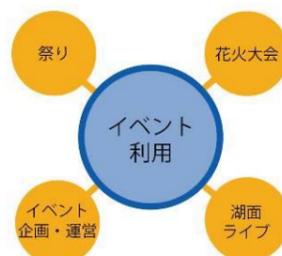
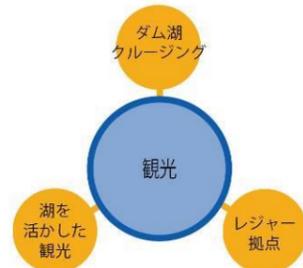
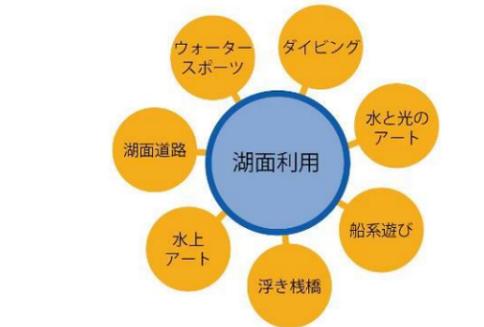
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル ○ その他



⑧ダム湖エントリーサイト

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

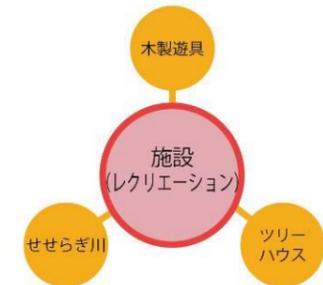
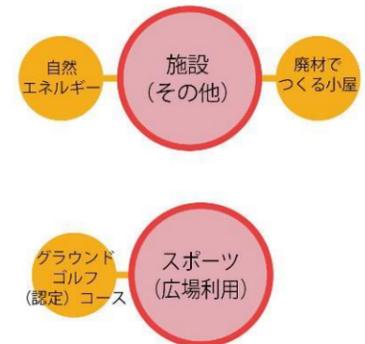
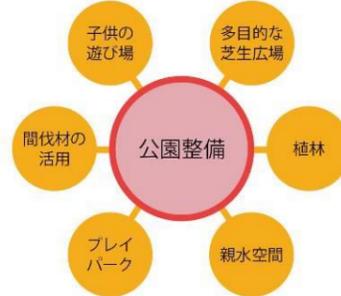
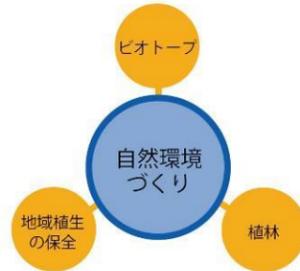
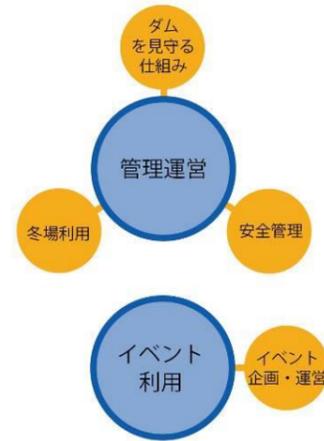
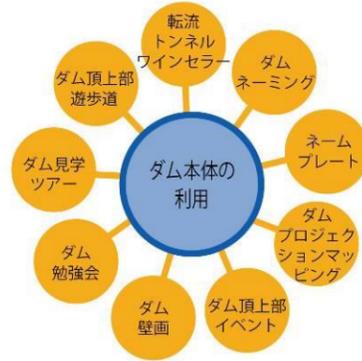
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル



⑨ダムを背景とした小川公園

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

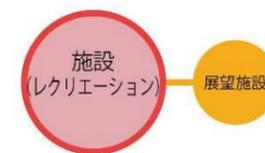
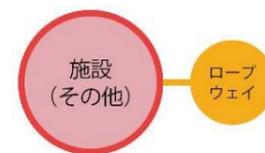
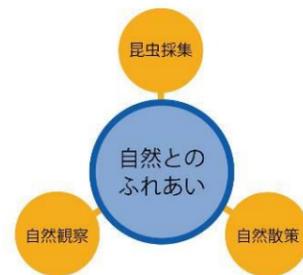
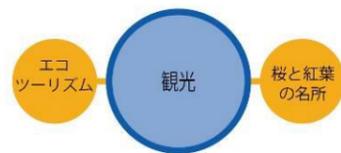
● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル



⑩自然遊歩道の眺望スポット

H26 地元ワークショップ、H27 地元説明、ファンづくり会、
 専門家、周辺プランワークショップ意見

● 大ジャンル ハード ● 大ジャンル ソフト ● 小ジャンル

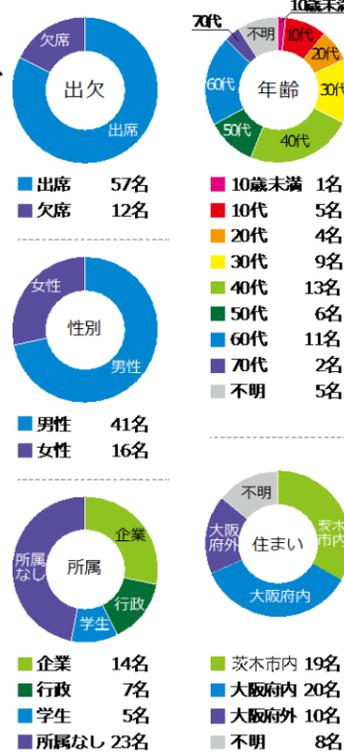


(4) ワークショップ各回まとめ

①第1回ワークショップ 2015.6.27 (土) 13:00-16:30

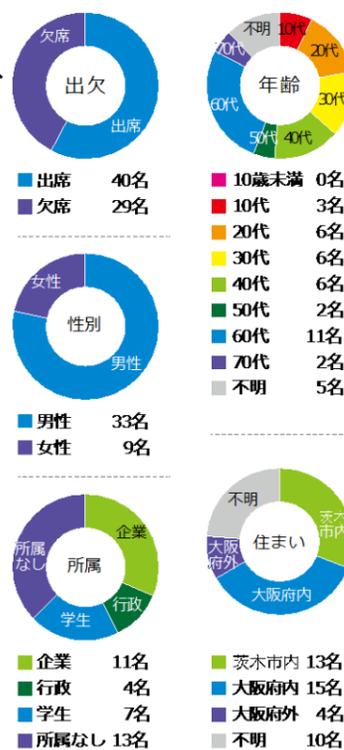
第1回ワークショップは、安威川ダム周辺の魅力を踏まえた上で、やってみたい活動を話し合った。参加者の住まいはほとんどが地元外であり、安威川周辺に生活環境を持たない方が多いため、安威川ダム周辺の魅力の意見としては、安威川ダムのエントランス部分に対するアクセスの良さが魅力であるという意見、また、自然豊かな景観の良さが魅力であるという意見が多くみられた。安威川外部の人間として、地域のわかりやすい要素を魅力として感じる傾向にあると考えられる。中には、安威川ダム周辺の景観の価値を上げる要素として、ダム周辺の歴史文化に関する魅力も挙げられている。

やってみたい活動の意見としては、安威川ダム堤体周辺、及び車作橋の周辺に人が集まる拠点を作り、それぞれの拠点を中心に自然を活用した活動、文化交流に関する意見が多くみられた。あくまで来訪者として安威川ダム周辺に訪れ、地域の文化に触れることができる活動を発想する傾向が強かった。地域の文化に触れることができる具体的活動として、食文化に関する活動が多く、歴史・文化を活用した活動の意見はあまり見られなかった。



②第2回ワークショップ 2015.8.29 (土) 14:00-16:00

第2回のワークショップは、第1回ワークショップで話し合った、安威川ダム周辺のエリアでやってみたい活動のブラッシュアップを行った。第1回ワークショップで話し合った内容をベースに、その活動に関わってほしいステークホルダー（活動の主体者、活動を楽しむ来場者）を付け加え、活動アイデアに具体性をもたせた。第2回ワークショップも、第1回ワークショップ同様、地元参加者は少なく、安威川ダム周辺に生活圏をもたない方が多く見られた。そのため、安威川、下音羽川の上流部のエリアに関する意見は少なく、安威川ダムの堤体周辺、及び生保半島近くのエリアに関する意見が多く出された。意見の全体を通して、安威川ダム周辺の資源（自然、食文化、風景等）を活用した遊び方、楽しみ方を地域外の人に教え、地域内と地域外とのコミュニティを形成し、今ある地域文化を守り育て、また、新たな利活用を新たな文化に昇華させていくことが持続可能な地域づくりにつながるのではないかという意識が見られた。今回の参加者の住まいの属性から、地域外の意見として、地元の人に地域の楽しみ方を教えてほしいというニーズがあると言える。



③第3回ワークショップ 2015.10.17 (土) 14:00-16:00

第3回ワークショップは、これまでのワークショップ内容を踏まえ、とりまとめチームで作成した、安威川ダム周辺プランのパスについて、意見を出し合った。

参加者属性としては、住まいに関してはこれまで同様、地元の方は少なく、ほとんどが地域外の方が目立ったが、40代までの方が6割ほどを占め、これまでのワークショップよりも若い層の割合が高かった。

参加者の属性と今回の結果の因果関係は直接的には説明しにくいものであるが、全体像として、安威川、下音羽川の上流部のエリアに関しては、来訪者が無秩序に遊ぶのではなく、自然的景観を保全する意識が高く見られた。一方で、車作橋以南のエリアでは、来訪者と地元の方の交流する拠点を求める意見が幾つか見られ、参加者は地元の方との交流を望んでいることが言える。またダム周辺で景観を楽しむ周遊回路を望みつつ、周遊の内側で様々な自然を活用したプログラムを展開した意見が多かった。

④第4回ワークショップ 2015.11.7 (土) 14:00-16:00

最終回である第4回ワークショップは、第3回ワークショップの意見を踏まえて修正された安威川ダム周辺のパスについての意見を出し合った。参加者属性について、他の回の大きな違いはない。そのため、上流部よりも下流部（ダム堤体周辺）に関する意見が多くみられた。

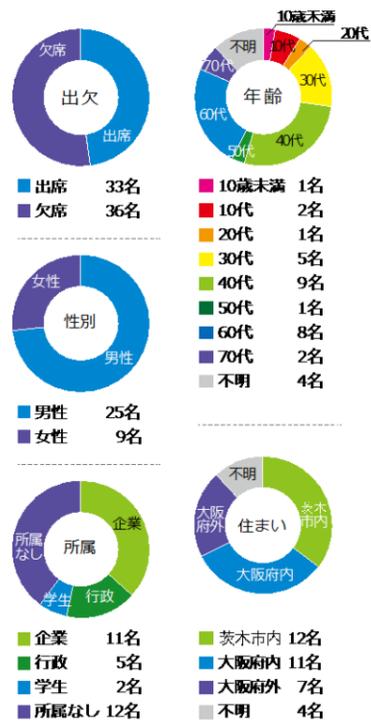
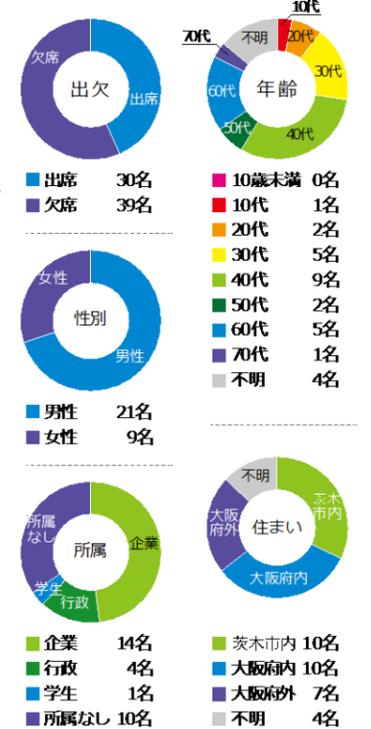
意見の内容としては、全体を通して、安威川ダム周辺の環境の維持を目指した持続可能なメンテナンス方法も積極的に出され、地域外の参加者が多いにもかかわらず、地域の維持を望む意見が多くみられた。

⑤総評

申し込み者数 69 名に対し、参加された方の延べ人数は 160 人になり、茨木市外の方は全体の約 46%に及びました。

今回のワークショップでは、安威川ダムの周辺のあり方を、地域内外の方と一緒に考えていくことができた。このワークショップを通じて、安威川ダム周辺整備基本方針（平成21年）に沿いながら、安威川ダム周辺の資源の「保全」と「活用」を意識した意見交換が行われたことは、参加者の皆さんが安威川ダムの資源をよく理解し、地域が未来のために必要としていることを、コミュニケーションを通じて質の高い意見を出されたことに起因します。このことはワークショップの参加者の皆さんの大きな成果と言える。

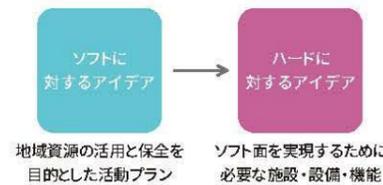
安威川ダム周辺の使いこなし方の特徴として、大きく3つに分けられる。一つ目は車作橋より北側にある川の上流部のエリアにおいて、自然資源の景観保全、生態保全に重きを置いた使いこなし方。二つ目は車作橋以南の川の右岸沿いにおいて、地元住民と来訪者の交流を目指した様々なコンテンツの使いこなし方。三つ目はダム堤体周辺のエントランスとして来訪者をもてなすコンテンツの使いこなし方です。地域資源を「保全」、「活用」しながらうまく、地域交流ができる使いこなし方がエリア特性に沿って生み出すことができました。これを踏まえた空間イメージをとりまとめチームが描き、空間の使いこなし方の発想から空間を生み出したことはこのワークショップの一番の成果と言える。



ワークショップのふりかえり

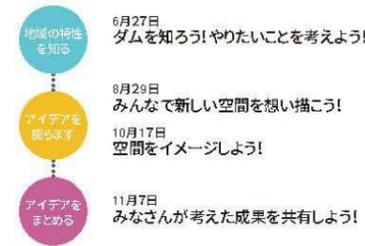
ワークショップ開催の主旨

安威川ダムとその周辺が永く利用されるための周辺整備のあり方や方向性を導き出すことを目的に、参加者の皆様がお互いの話し合いの中で、安威川ダム周辺の魅力的な資源や課題を見つけ、それらを活用、または保全できるようなアイデアを考えるワークショップです。この成果は、周辺整備をする際の方向性と構想につながります。



ワークショップの流れ

風景、生態系、文化などの、ダム周辺の資源を探り、それらの資源を活用したり保全するソフト（使い方）アイデアを先行して考えます。その後、ソフトを実現するために必要なハード（設備）設備を考えます。ハードを先行して考えないことにより、真に求められているプログラムを継続的に実施することができると共に、使い方に伴った空間イメージを形づくることができます。



安威川ダム周辺プランワークショップ①

ダムを知ろう! やりたいことを考えよう!

日時
6月27日(土)13:00~16:30

- プログラム
- 01 開会のあいさつ
 - 02 現地見学
 - 03 レクチャー
 - 04 とりまとめチームとWSの関係
 - 05 ワーク：
やってみたいことを考えよう
 - 06 閉会のあいさつ



初回ワークショップでは、安威川ダムの現地見学と、見学でみつけた魅力をテーマにしたテーブルワークを行いました。現地見学では、ダムを一望できる安威川ダム資料館前と、上流部にある車作橋上を巡り、樹木に囲まれた風景や、水質の良い川が流れていること等、豊かな自然を体感しました。テーブルワークでは、豊かな自然環境を壊さないように保全していく必要性があげられた他、ダム湖面を活かした水辺のレクリエーションに対するアイデアが話し合われました。提案されたアイデアの多くは、地域資源と関連する形であったことから、地域との連携が今後重要視するひとつのキーワードとして共有されました。

安威川ダム周辺プランワークショップ②

みんなで新しい空間を思い描こう!

日時
8月29日(土)14:00~16:00

- プログラム
- 01 開会のあいさつ
 - 02 前回のふりかえり
 - 03 とりまとめチーム資料解説
 - 04 ワーク：エリアごとの空間
利用方法のブラッシュアップ
 - 05 発表
 - 06 閉会のあいさつ



第1回で提案された、実現できそうなソフトアイデアを、「活用」と「保全」の視点からブラッシュアップ（磨き上げ）しました。安威川上流部は自然が豊かなことから、間伐や植樹、生態系の調査など保全に対するアイデアが集中しました。活用アイデアとしては子どもが川遊びを体験できるプログラムが考えられました。車作橋～生保半島あたりでは、地元集落が多く存在するエリアであることから、地域住民と連携が期待できる農やスポーツに関するアイデアがあがりました。ダム周辺部ではダム湖の活用や情報発信に対するアイデアがあがりました。また、市民参画のプログラムを実施するための組織や運営体制の必要性が提案されました。

安威川ダム周辺プランワークショップ③

空間をイメージしよう!

日時
10月17日(土)14:00~16:00

- プログラム
- 01 開会のあいさつ
 - 02 前回のふりかえり
 - 03 空間イメージの解説
 - 04 ワーク1：空間イメージの評価
 - 05 ワーク2：不足しているヒト・モノ・コトを考える
 - 06 発表
 - 07 閉会のあいさつ

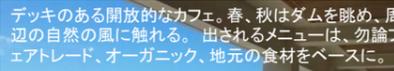
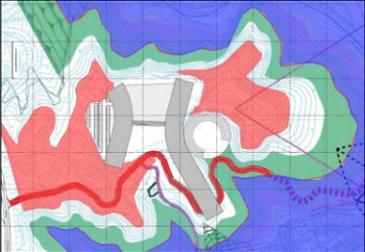


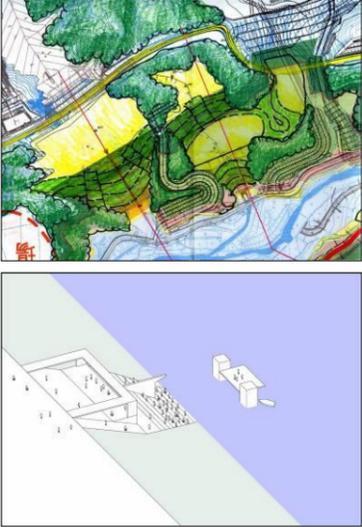
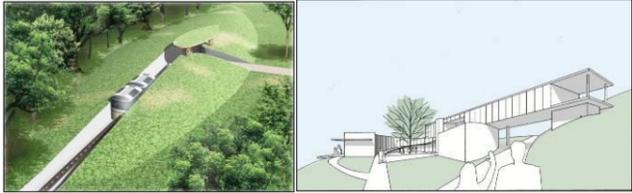
これまで話し合われたソフトアイデアを元に、とりまとめチームで描かれた空間イメージに対しての意見交換を行いました。最初に、とりまとめチームの忽那氏から各エリアの特徴が説明があり、上流部は川沿いに旧府道があり水辺に近づき利用できること、車作橋周辺エリアは平坦な土地であることからスポーツやキャンプをするのに適していること、ダム湖周辺は湖面を活用したアクティビティや景観を楽しむエリアといったことが共有されました。この説明を受け、テーブルワークでは空間イメージに対して良い点、改善すべき点を話し合いました。安威川ダムは広大であるが、何でもできそうなことを詰めこむ必要性はなく、利用者が使いやすい空間になっているかということが見直されました。

専門家の知見およびアイデアの統合

専門家より提案された各専門分野からの知見、アイデア等を以下に示す。

氏名	構想名	構想の内容（本骨子プランに合致できそうな内容）	
<p>[土木担当]</p> <p>赤松 利之</p> <p>・株式会社ニュージェック所属</p>	<p>湖面橋の構想</p>		<p>■湖面に映える周辺景観の保全と再生・創出 湖を抱く山々と空のパノラマ、その風景を映す湖面が望める水辺空間との調和、ダムと湖面の風景を水上から楽しむことが出来る空間の創出を図る。</p> <p>■北摂のシンボル空間を創出 橋長 300m の日本最大級の人道橋吊橋として北摂のシンボル空間を創出する。 地域住民、ダム見学者の出会い（交流）の場に繋げる。吊橋の左岸取り付け部付近の広場からは、ダムも眺める事が出来、広大な風景を楽しむことができる。</p>
	<p>ダムツーリズム構想</p>		<p>ダムとその周辺地域の環境を活用し、地域と連携してダムの観光資源としての活用を図る。また、ダムの工事現場も活用して完成前から観光資源としての効用を発現できるようなダムのツーリズムを実施。</p> <p>■ダムを見に行こう 民間ツアー会社と連携してダムツアーを実施 ダム底探検、ダムウォーキング、どぼ旅等</p> <p>■森と湖に親しむ旬間 カヌーツアー、治山治水教室、ダム探検ツアー、ダム貯水池巡視体験、地場産品販売等</p>
<p>[ランドスケープ担当]</p> <p>忽那 裕樹</p> <p>・株式会社 E-DESIGN 代表</p> <p>・大阪府立江之子島文化芸術創造センター、プラットフォーム部門チーフディレクター</p>	<p>民活による 安威川ブランディング 構想</p>	 	<p>■都心にもっとも近い総合アウトドアフィールドへ 大阪都心から 30 km という近さにありながら、豊かな環境に囲まれた安威川ダム周辺の環境を最大限に堪能できる体験型アウトドアフィールドをめざすことを提案する。 ・大阪府内外からの集客が見込める ・安威川ダム周辺の自然環境を体感できる ・充実したコンテンツで過ごし方の選択ができる</p> <p>■さまざまなユーザーが楽しめる多様な体験環境の提供 利用者のスキルやニーズに合わせて、自然環境やサバイバル度を選択できる環境を用意することにより、多様なアウトドアアクティビティが展開される場所になるべきと考える。 ・ニーズに合わせて選択性のあるキャンプ場 ・さまざまな難易度の水面利用プログラム ・幅広い層が楽しめるアクティビティ</p>
	<p>ファンづくり会の 発展構想</p>		<p>■ファンづくり会を、ダムと周辺の保全と活用を担う主体へ 地元で活動している団体や環境や文化といった分野で関わりのある団体などのメンバーで構成され、ファンづくり会が主体となって安威川ダムとその周辺の利活用を担うことが望ましいと考える。 ・ファンづくり会が主体となったおまつりづくり ・日常の利活用の促進</p>
			<p>■遊び場の空間を創出 ・中央付近からのバンジージャンプ（例：竜神大橋） ・スリル感あふれる揺れる大橋（例：谷瀬の吊り橋） ・自転車も通れる自転車橋 ・鯉のぼり（他・・・）の橋渡し</p> <p>※ダム湖・吊り橋の名称は、地域住民等からアンケートを募る。</p> <p>■観光、あるいは旅行 遠方から人を呼び寄せることが必要で、山間地にあるダムへ下流の都市住民が旅行するといったイメージ。</p> <p>■ツアー会社との連携 遠隔地への旅行で、それなりの人数がある場合、ツアー会社主催のツアーが想定されるが、それ以外でも、例えば個人が自家用車でダムに行くようなことも、ダムツーリズムに含めて考える。 ※ダムツーリズムでは、ダムカードの配布、昼食時にはダムカレー、ダムケーキの試食・販売、水陸両用バスでの貯水池巡視ができる等の魅力を加える</p> <p>■民間のブランド力を活かしたエリア価値の向上 民間のアイデアで空間を創出し、ブランド力や発想力を活かして、エリアの価値を高めることができる。 ・MUJI CAMP（無印良品） ・グランピング ・WILDMAGIC（ワイルドマジック）</p> <p>■安威川にしかない魅力ネットワークの創造 安威川周辺にある各所の魅力をつなげ、ここでしか体感できないプログラムを創出。 ・安威川エコツーリズム ・安威川流域サイクルコース ・ダム周遊ツアー ・水上体験と合わせたツアー ・地域文化体験</p> <p>■安威川版エリアマネジメントへ 安威川周辺に観光案内所でもあり、ファンづくり会の拠点でもあるセンターを設置し、安威川ダムとその周辺を一体的に包括占有し、施設利用や駐車場での収入を地域へ還元できる仕組みを構築。 ・ダムだけではない、エリア全体の魅力創造 ・包括占有における収益を活用し、地域還元へ ・地域魅力を発信</p>

<p>[アート担当] 甲賀 雅章 株式会社シーアイセンター代表取締役プロデューサー・大阪府立江之子島文化芸術創造センター館長</p>	<p>Aigawa Eco Station</p>	 <p>エコステーション</p>    <p>アートWS</p>  <p>環境教育</p> 	<p>■安威川ダムの掲げるビジョンのシンボリック存在。 新たな複合施設 水がつなぐ「自然・人・文化」を育む安威川ダムのビジョンを具現化、体現できる施設。カヤックや自転車、バーベキューセット、ハンモックなどの貸し出しやワークショップ参加への申し込み窓口、環境プログラムの情報提供などの visitor-center 機能だけではなく、この施設で様々な体験が出来る eco-museum、children-museum、civic-center の機能を備えることで、施設としての恒常的価値を高めていく。サイクリスト、ハイカー、ドライバーが気軽に立ち寄れるように、名称に station を使用していく。(水の駅)</p> <p>■建物全体が環境保全に対応した eco-Architecture。 新しい名所 この施設は、安威川ダムのブランディング上極めて重要な意味を持つ。それ故に、建築構造、使用素材、エネルギー対策などにおいて、常に環境保全の視点が不可欠である。環境と人の共存に配慮した近未来建築の見本となるような配慮が必要である。</p> <p>■ついでではなく、わざわざ行きたくなる仕掛け作り。 年間を通じた誘客 建築も一つの観光資源であるが、オーガニック Cafe や自然を眺めて過ごすリラックス Space、地元食材のマルシェ、eco-design shop、ギャラリー、図書館などの施設、また定期的に行われる環境教育や子ども達のアート教育、アウトドアフィットネス、野外ステージを使ったヨガなどの環境、アート、健康をテーマにした多彩なプログラム実施することで、年間を通じた誘客が見込める。</p>	<p>■既存活動団体との協働。四季を通じて使える活動拠点 地域の活動拠点として年間を通して使えることも、この施設の大きな魅力である。様々な活動団体のプログラムがさらに発展して、この施設の日常的コンテンツになれば、一年を通じた集客が望める。また、野外ステージ的な機能が付帯できれば、フェスティバルの会場としても格好である。</p> <p>■様々なステークホルダーを巻き込んだ協働運営。 PPP (パブリック プライベート パートナシップ) 計画段階から民間事業者や NPO 法人、市民活動団体、建築家、アーティスト、デザイナー、市民を参加させ、プランを作っていく。この段階で、いかに経済的に自立できるかも検討していく。最終的には、官が施設を建設保有し、幾つかの民間事業者に貸与していく。借料収入で設備のメンテナンスなどを賄っていく。民間事業者はショップの販売収入、カフェ収入、教育プログラム収入、レンタル収入、貸し室収入などを得ていく。単に、企業の CSR で参加するのではなく、そこで利が得られるよう、計画段階からの参画が必須である。</p>
<p>[建築担当] 星田 逸郎 株式会社星田逸郎空間都市研究所</p>	<p>ビジターセンター構想</p>	 	<p>■自然の地形と大観により生み出される空間構造形態 ビジターセンターは自然と人工の融合した象徴空間であり、大らかな強さと固有性ある形態が望まれる。生保半島の景色を破壊せず、その地形と創造的に共生し、ダム環境の魅力を感じられる広場や建築の形態が求められる。</p> <p>■尾根と尾根の間にはめ込まれた建築と広場 半島の尾根地形に呼応した“陸のダム”のような建築のツインが、湖につながる谷のような広場を挟む形態を提案する。元の地形をそのまま生かし、建築は木造低層でも可、増殖的に段階整備が可能。参加建築の可能性もある。</p>	<p>■湖-広場、尾根-建築という形態が様々な機能を創出し包摂する 広場は両側の湖面の活動をつなぐ事が出来、建築や広場の中から多方向の景色が感じられ、半島の斜面や樹林での自然活動とも動線が一体に繋がる。エコロジーに繋がる展開にとっても適した計画としている。</p> 

	<p>自然地形構想</p>		<p>■大地の構成と形状を柔かく自然に馴染ませる ダム周辺に於ける建築は人工と自然をつなぐ媒介装置であり、その為にはまず湖畔の造成形態の質が大切である。大地の構成を自然の脈に馴染ませ、大地の形状を柔かく自然と馴染ませる事が出来れば建築デザインの半分は既に成功している。</p> <p>■水位の変化という固有の自然現象をデザインにする ダムの水位が変化し景色が変化することは固有のデザイン資源である。水位が満ちた時の、水位が枯渇した時の景観の感動を建築計画に生かせば、他に追従出来ない劇的な魅力を作り出せる。</p>	<p>■標高を生かしたデザイン ダム周辺は丘や尾根に囲われる。自然だけでなく農の景観も、ブドウ園やだんだん畑など標高に固有の景観がある。建築の構成や空間も、“低地にある大地と一体の建築“や、”丘の上を跳ねるような建築“など、環境の特性を生かした魅力と快適さを生み出す事が望まれる。</p> 
<p>[周辺環境・景観担当] 水谷 省三 アルパック (地域計画建築研究所)</p>	<p>地域資源・マッチング・ネットワーク構想</p>	 <p>サイクルロゲイニング</p> <p>地域食材活用</p>	<p>■ダム湖周辺で生み出されるアクティビティと北部エリアの地域資源等とのネットワーク 茨木市北部エリアは、隠れキリシタンの里などの歴史的資源や野菜やジェラート等が売られている見山の郷（直売所）、古民家を利用したカフェや食事処など、里山で遊べるエリアが点在している。こうした豊かな地域資源との連携によるツアー等、ダム湖周辺を起点とした取組を提案する。 連携に係わる取組として、ダム湖周辺で展開されるアウトドア等アクティビティに参加する人への案内をはじめ、誰もが参加できるツアーなどの取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム湖周辺の拠点として、北部エリアの地域資源をチェックポイントにした「サイクルロゲイニング」等取組 ダム湖周辺を起点とし、北部エリアの丘陵を巡るトレッキングやハイキング等の取組やガイドなどによる支援 ダム湖周辺の名所を巡る（つり橋、展望スポット等）ダム湖周遊ツアー 取組等の開催に係わる案内や情報発信など、関連機関での連携告知 	<p>■北部エリアの地元食材等を活用した「食育・食体験」のネットワーク 見山の郷などで販売されている地元産の野菜等の食材や、鮎やアマゴ等の自然の恵みなどを利用した「食育・食体験」での食材利用や食育・食体験等取組を提案する。 ダム湖周辺に展開される飲食施設や食育、食体験等の場への利用が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム湖周辺のカフェやレストラン等での食材等活用 B B Qや食体験に係わる取組等への食材等活用や販売デリバリー ダム湖周辺の拠点施設での食材・加工品販売等 <p>■ダム湖周辺と北部エリアを結ぶシャトルバス等ネットワーク 近郊中心市街地のターミナルからダム周辺及び北部エリアの主要地域資源を結ぶシャトルバスネットワークを提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北部エリア主要資源とダム湖周辺を結ぶルートネットワーク（ダム湖周辺への来訪者が北部エリア方面へ向かう利便性向上） ダム湖周辺フィールドの周遊ルートや山間地施設での駐車場確保困難地などへのシャトルバス運行等

3. 上位計画

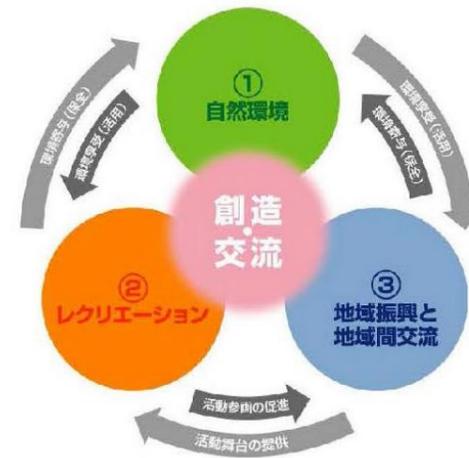
3.1 安威川ダム周辺整備基本方針（平成 21 年 8 月）

（1）基本方針とワークショップの関係性

とりまとめチームでは以下に示す通り、上位計画となる安威川ダム周辺整備基本方針に基づき、各ワークショップからの意見、アイデア等を踏まえた整備内容の検討を行う。

安威川ダム周辺整備基本方針（平成 21 年 8 月）

「未来につなぐ美しい自然、創造と交流の湖畔の里
”北摂の自然と人の織りなす美・自然と人の新たな調和”を目指して



①自然環境の観点

<レクリエーションへの活用（環境享受）>

周辺の自然環境を良好に保全、再生することを基本に、ダム湖の出現による新たな水辺空間と既存の資源を有効に活用しながら、近年のレクリエーション需要を活かして府民に還元していくことが望まれます。

<地域振興と地域間交流促進に向けた活用（環境享受）>

自然と人の営みの中でこれまでに育まれてきた文化や景観はもちろん、新たに出現するダム及びダム湖は、地域の重要な資源となり、自然環境の保全と再生を基調にこの地域振興と地域間交流を促進して新たな文化を育むために、有効かつ適正に活用していくことが望まれます。

②レクリエーションの観点

<自然環境への寄与（環境寄与）>

自然環境に恵まれた安威川ダム周辺では、府民の自然環境や景観の美しさに対する意識の高まりの中、レクリエーション利用においても、自然環境を教材とした学習・体験の場の提供などにより、自然環境の保全や再生への府民の参画を促進することや、環境への負荷軽減に寄与する利用を促進することが望まれます。

<地域振興と地域間交流の促進（活動参画の促進）>

里山の管理、棚田での農作業、地域の伝統文化などを教材とした余暇活動の場を創出し、地域文化への府民の参画を促進し、地域のオリジナリティを確保するとともに、地域振興や地域間交流の促進へ寄与することが望まれます。

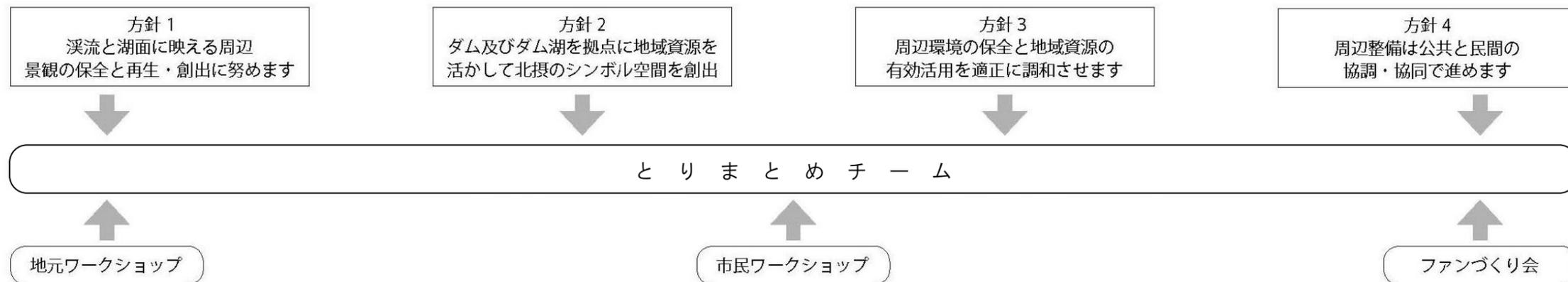
③地域振興と地域間交流の観点

<自然環境の保全と再生（環境寄与）>

安威川ダム周辺では、管理が行き届いていない森林や休耕棚田が散見される一方、里山保全や自然環境保全等の市民活動の展開に加え、農業体験の需要も見込まれます。住民の高齢化等が進む中、自然環境、里山環境の保全や再生に向けて、市民活動との協調・協働や交流を支えるシステムを育成して自然環境に寄与していくことが望まれます。

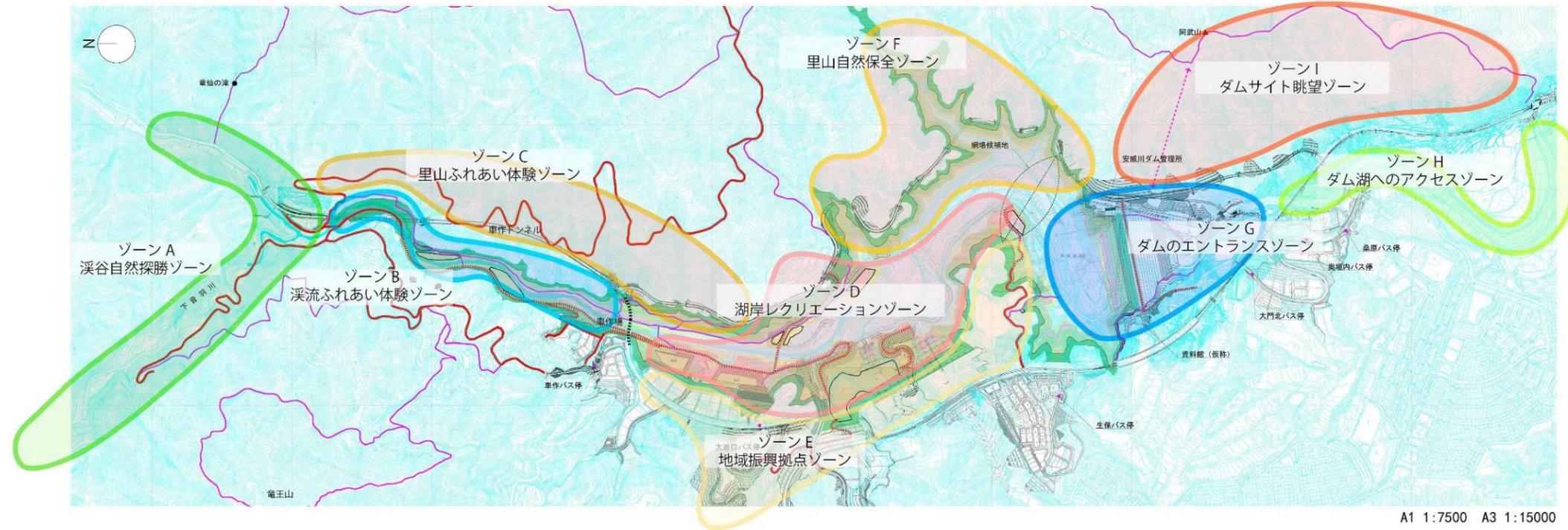
<レクリエーションフィールドの創出（活動舞台の提供）>

これまで育まれ伝えられてきた地域の文化や伝統、またダム湖の誕生と周辺整備により新たに生まれる地域振興と地域間交流により創出されるイベントや地域の文化などが、レクリエーション活動の創出につながることを望まれます。



(2) 基本方針ゾーニング

安威川ダム周辺整備基本方針（平成 21 年 8 月）において設定されたゾーニングおよび各ゾーンの方針を以下に示す。



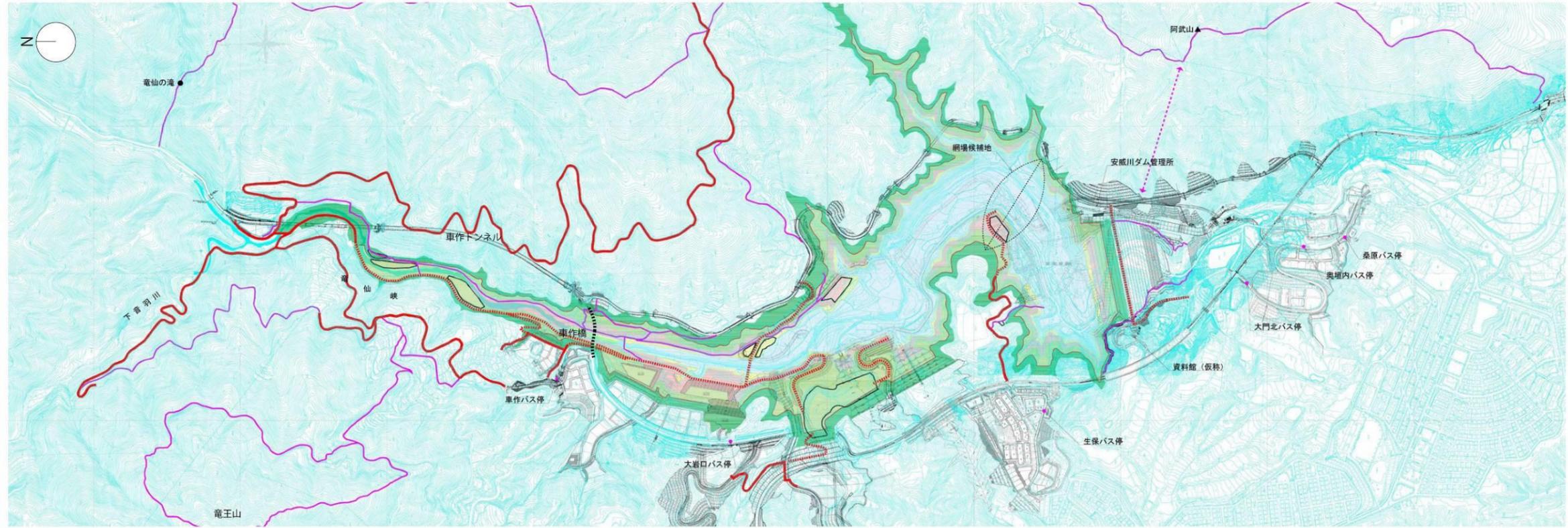
A1 1:7500 A3 1:15000

ゾーン区分	環境寄与（保全）の方針	環境享受（活用）の方針
<ゾーンA> 渓谷自然探勝ゾーン	・下音羽川、安威川上流の渓谷と森林の自然環境を保全することに重点を置きます	・既存の自然歩道を利用し、沿道に歴史資源（深山水路）、伝統文化体験施設（炭窯）などと連携した小規模な空間整備を目指します
<ゾーンB> 溪流ふれあい体験ゾーン	・竜仙峡に代表される溪流環境を引続き保全することに重点を置きます	・既存のアユ・アマゴ等の溪流釣り場との連携や小規模な面的整備など、溪流に近づけるような工夫を行い、溪流及びその周辺での余暇を楽しめる空間となるようにします（空間用途を広げることで、付加価値を高めます）
<ゾーンC> 里山ふれあい体験ゾーン	・山林空間や棚田・ため池空間を良好に保全することを基本とします	・既設自然歩道（林道）沿いの場所を選び、ダム湖を眺望する箇所を整備し付加価値を高めます ・周辺の里山内の里道を整備することにより、左岸道路や湖面とのアクセス機能を高めます（里山保全活動や棚田を利用した体験農業の場となります）
<ゾーンD> 湖岸レクリエーションゾーン	・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります ・水際は柔らかい草の植生が確保されるように努め、水生生物の生息環境の確保に配慮します	・平坦な利用可能地があり、ゾーンEと併せてダム湖周辺の拠点的ゾーンとします ・右岸側の造成平地は1/30年確率以上の冠水範囲であり、水際から遠い反面、眺望が期待できることから、利用者ニーズに合わせた整備を図ります（駐車場や小規模な建物等） ・左岸側の平坦地は、左岸側拠点としての整備も考慮します
<ゾーンE> 地域振興拠点ゾーン	・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります ・付替府道（茨木竜岡線）に接し、かつダム湖畔の景観を構成する主要ゾーンとなりますので、周辺環境への影響をできるだけ緩和し、景観に調和したものとるように配慮します ・将来活用を予定している区域についても、暫定的に花畑や草原、芝生広場とするなど、緑化や景観の配慮を図ります	・付替府道（茨木竜岡線）沿いのゾーンであり、ダム湖畔への集客や来訪者へのサービスを目的とした施設配置を考慮します ・地域振興に寄与する内容規模の民間開発を誘導します ・周辺農地は、地域住民の協力を得て、食材の供給や体験農業の場としての利用も考慮します
<ゾーンF> 里山自然保全ゾーン	・湖面へ流入する溪流は良好な自然環境を有しており、現況保全に重点を置きます ・左岸道路を除き湖面から山地にかけて現況森林が残される箇所であり、景観緑地としての良好な保全に配慮し、積極的な山林空間の利用は基本的に制限します	・自然環境保全活動を行い、利用については従来程度にとどめるものとします
<ゾーンG> ダムのエントランスゾーン	・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります ・ダム完成時、暫定的に花畑、草原、芝生広場とするなど、緑化や景観的な配慮を図ります	・レクリエーション空間としての整備の他、ダム堤体を含む施設見学に配慮した整備を目指します ・ダム直下と天端付近からダム上流との歩行者動線が確保できるような整備を考慮します
<ゾーンH> ダム湖へのアクセスゾーン	・ダム直下の洪水吐からつながる河川については、現在の溪流環境の保全に努めます	・下流部については、残土処分地の整備や河道改修と合わせた自然環境の創造や保全、川沿い及び集落やさらに下流河川とのネットワークの形成を目指します ・周辺農地は、地域住民の協力を得て、食材供給地としての活用も考慮します
<ゾーンI> ダムサイト眺望ゾーン	・良好な植林地としての現在の山林環境の保全に重点を置きます	・阿武山古墳や武士自然歩道（明智街道）といった既存の歴史資源を保全し、休憩施設を兼ねた眺望箇所を整備し、付加価値を高めます（里山保全活動の場となります） ・阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線を確保します

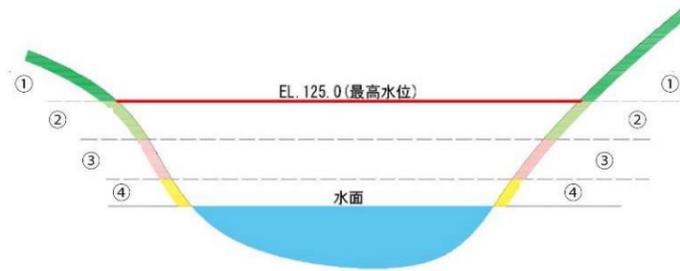
安威川ダム周辺整備基本方針より

(3) 冠水頻度区分図

ダム湖周辺の冠水頻度区分図を以下に示す。



A1 1:7500 A3 1:15000



水位断面

凡例

冠水頻度(区分)	色別	土地標高	備考(冠水確率規模)
①	緑	E.L. 125.0以上	サーチャージ水位以上 ※1
②	黄緑	E.L. 115.3~125.0	1/10~最高水位
③	黄	E.L. 104.0~115.3	1/1~1/10確率
④	オレンジ	E.L. 100.4~104.0	常時満水位~1/1確率
水面	青	E.L. 100.4以下	常時満水位以下

— E.L.125.0(最高水位)

- 一般車両通行道
- 管理用車両通行道
- 歩行者通行可能道

※1 サーチャージ水位：
洪水時に、一時的に貯水池に貯めることが出来る最高の水位。

4. 各ゾーンの空間特性と課題整理

地元ワークショップ、安威川ダム周辺プランワークショップ、専門家等より出されたソフト・ハードのアイデアを実現していくにあたっての課題を整理する。

課題整理の視点

[整備の視点]

視点1: 計画条件設定のための課題

安全に関する課題

出水時の対策等

土地利用に関わる課題

整備内容の設定における条件、検討事項等

各種法令制限に関する課題

整備に関わる法令等

視点2: 整備(投資)項目設定のための課題

①基本整備

基本整備に必要な事前投資

整備を行う前に必要な調査、土地買収等

基本的な整備投資

人が利用するために最低限必要な整備

②発展整備

高度利用のための整備

利用を促進するための整備

民間事業者導入に必要な事前投資

民間事業者誘致を検討するための調査、公募等

民間サービス施設整備に伴う整備投資

民間施設導入にあたって必要となる追加整備等

視点3: 管理運営に関する課題

①河川区域内

河川管理者による管理(一般的な河川管理)

河川管理者が通常行う管理内容

民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)

民間事業者等の占有者が行う高度な管理内容、必要な手続き等

地元との連携

地元協力による管理内容

②河川区域外

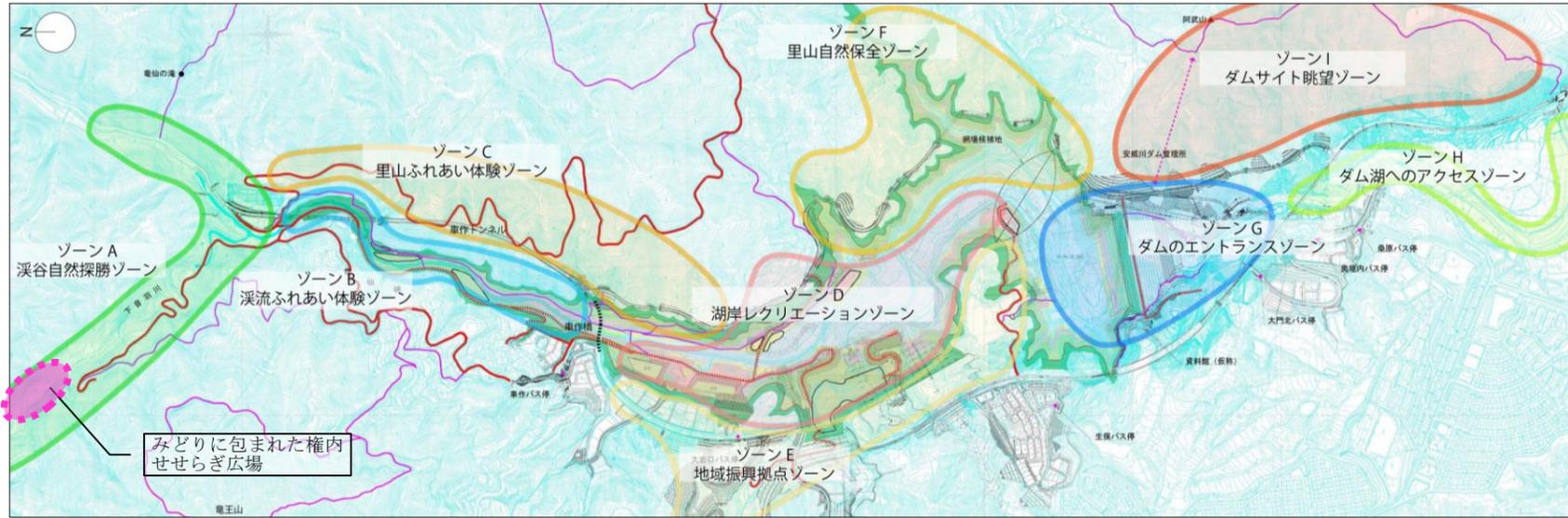
民間事業者等による管理

民間事業者等が行う管理内容

地元との連携

地元協力による管理内容

4.1 ゾーンA: 渓谷自然探勝ゾーン (パースアングル①)



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■自然とのふれあい 自然散策、自然体験、昆虫採集、 自然観察 ■自然環境づくり ビオトープ、秘境感の演出、 自然保護、里山保全 ■イベント利用 炭焼活動 	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動空間 <ul style="list-style-type: none"> ・現況の自然を保全した樹林環境 ・活動スペース (小広場) ・最小限の通路、散策路 	安全に関する課題 ・出水時の安全性の検討 土地利用に関わる課題 ・求められる機能に適した場所の設定(面積、形状等) 小広場等の機能を満足する場所 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み 各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域)	①基本整備 基本整備に必要な事前投資 ・土地利用のための調査、測量、設計等 基本的な整備投資 ・危険箇所の補修、通路整備 ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、最小限の安全柵等)	①河川区域内 河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・管理用通路、施設等の維持管理 (除草、清掃、伐採等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理 (除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等) 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				②発展整備 高度利用のための整備 ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備	②河川区域外 民間事業者等による管理 ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
水域	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺利用 釣り、魚獲り ■支流利用 沢登り、玉砂利の川 	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺 ・現況の自然を保全した水辺環境 	安全に関する課題 ・出水時の安全性の検討 各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域)	①基本整備 基本整備に必要な事前投資 ・測量、設計等 基本的な整備投資 ・危険箇所の補修、通路整備 ・その他安全対策整備	①河川区域内 河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				②発展整備 —	②河川区域外 —
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■基本インフラ トイレ、ゴミ処理、汚水処理 ■管理運営 安全管理、ソフトの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース 			

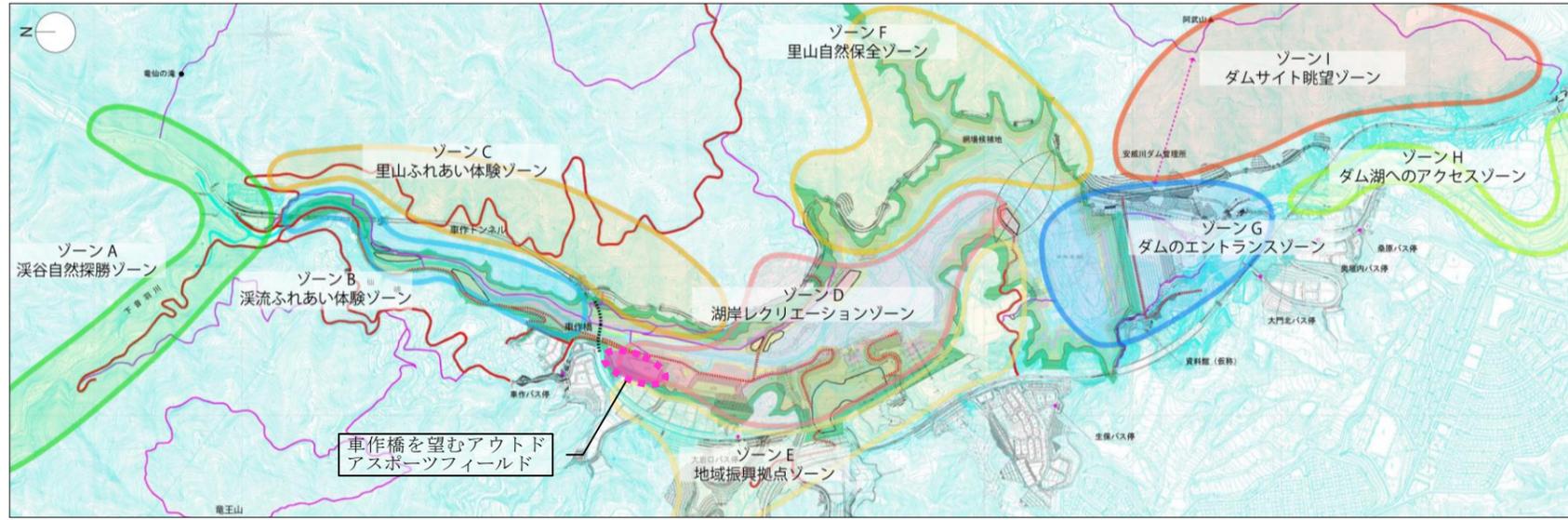
4.2 ゾーンB：溪流ふれあい体験ゾーン、ゾーンC：里山ふれあい体験ゾーン（パースアングル②）



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■自然とのふれあい 自然体験、田舎暮らし体験、 自然散策、自然観察 ■自然環境づくり ビオトープ、里山保全、自然保護、 地域植生の保全、原地形の保全 ■野外活動 キャンプ、BBQ・飯ごう炊さん ■施設 (その他) ログハウス、自然エネルギー ■その他 護岸形状、製紙工場跡地活用 	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動空間 <ul style="list-style-type: none"> ・散策路、観察通路 (木デッキ等) ・溪流への階段、スロープ ・活動スペース (小広場) ・洗い場 ・案内、サイン ■遊歩道 <ul style="list-style-type: none"> ・既存遊歩道 (林道) の活用 ・里道の整備 (左岸道路、湖面とのアクセス機能) 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出水によるダム湖内の冠水頻度 サーチャージ水位 E.L. 125m 以下は洪水時に水没 E.L. 130m 以下は建築物等の制限あり ・求められる機能に適した場所の設定 (面積、形状等) 小広場等の機能を満足する場所 ・管理施設 (必要な場合) の配置検討 E.L. 130m 以上での常設施設 E.L. 130m 以下での仮設施設 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 ・土地買収等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽微な造成、危険箇所の補修、通路整備 ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、最小限の安全柵等) <p>②発展整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備 ・遊歩道の整備 <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・既存環境のポテンシャル調査による活用エリアの設定 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物 (管理施設)、インフラ等 	<p>①河川区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路、施設等の維持管理 (除草、清掃、伐採等) <p>民間事業者等(占用者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占用者条件の提示 (安全対策、出水後の維持管理等) ・利用ルールづくり (利用範囲、水質、ゴミ、護岸) (河川法、砂防法順守) ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理 (除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等) <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託) <p>②河川区域外</p> <p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 ・民間サービス提供に伴う管理運営 <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題				
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営	
水域	<ul style="list-style-type: none"> ■支流利用 リバーサーフィン ■水辺利用 水遊び、川床、木製遊歩道 ■自然とのふれあい 魚の放流 ■自然環境づくり ビオトープ、里山保全、自然保護、 地域植生の保全、原地形の保全、 水質保全 ■その他 ・護岸形状 	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺 ・水の引き込み、親水空間の造成 (近づきやすい護岸、川原空間) ・溪流への階段、スロープ 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に関する課題 ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域) 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本整備 	<ul style="list-style-type: none"> 基本整備に必要な事前投資 ・測量、設計等 基本的な整備投資 ・軽微な造成 ・その他安全対策整備 	<ul style="list-style-type: none"> ①河川区域内 	<ul style="list-style-type: none"> 河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■基本インフラ 駐車場、アクセス道路、トイレ、 汚水処理、ゴミ処理 ■管理運営 利用マナー、安全管理、管理者、 冬場利用、清掃 ■交通の計画・実践 ・アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース 		<ul style="list-style-type: none"> ②発展整備 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者導入に必要な事前投資 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 	<ul style="list-style-type: none"> ②河川区域外 	—

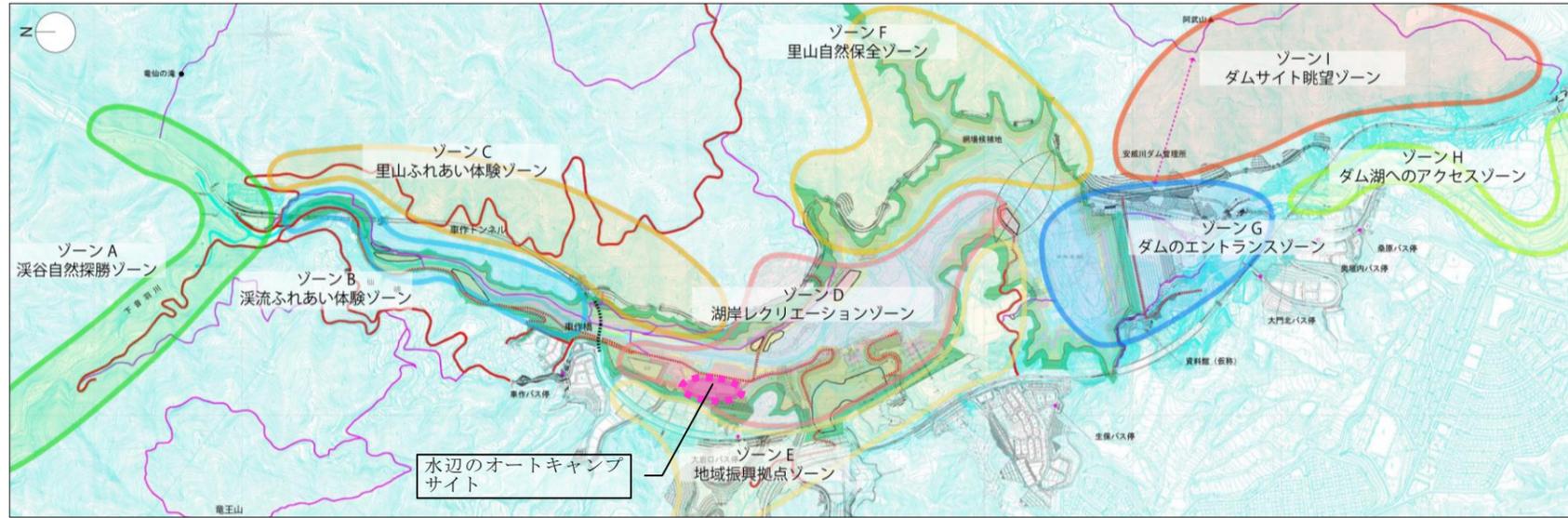
4.3 ゾーンD: 湖岸レクリエーションゾーン (パースアングル③)



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ (全体利用) 総合アウトドアスポーツ、マラソン、 トレイルラン、トライアスロン ■野外活動 野外活動の場、ダム周遊コース ■スポーツ (広場利用) グラウンドゴルフ (認定) コース、 少年野球のできるグラウンド ■公園整備 多目的な芝生広場 ■施設 (飲食) カフェ ■施設 (情報発信) 拠点施設 ■施設 (その他) 管理施設、管理倉庫、休憩施設、 防災機能 ■その他 高橋の保存 	<ul style="list-style-type: none"> ■広場空間 ・グラウンド ・芝生広場 ■周遊路 ・幅員の広い通路、公道との連続性 ■施設 ・飲食、情報発信、管理施設等 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出水によるダム湖内の冠水頻度 サーチャージ水位 E.L. 125m 以下は洪水時に水没 E.L. 130m 以下は建築物等の制限あり ・求められる機能に適した場所の設定 (面積、形状等) 広場、周遊路等の機能を満足する場所 ・管理施設 (必要な場合) の配置検討 仮設による整備 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場造成 ・上面整備 (舗装、芝生、階段等) ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、安全柵、防球フェンス等) 	<p>①河川区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路、施設等の維持管理 (除草、清掃、伐採等) <p>民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 (安全対策、出水後の維持管理等) ・利用ルールづくり (利用範囲、水質、ゴミ、護岸) (河川法順守) ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理 (除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等) <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
			<p>②発展整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備 ・周遊路整備 <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物 (管理施設)、インフラ等 	<p>②河川区域外</p> <p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 ・民間サービス提供に伴う管理運営 <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託) 	

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営
水域	—	■水辺 ・陸域と連動した水辺空間の活用整備	安全に関する課題 ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 各種法令制限に関する課題 河川法、都市計画法 (市街化調整区域)	①基本整備	基本整備に必要な事前投資 ・測量、設計等 基本的な整備投資 ・軽微な造成 ・その他安全対策整備	①河川区域内 河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				②発展整備	民間事業者導入に必要な事前投資 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募	
その他	■管理運営 安全管理、管理者、目的型スポーツ、 ペット、清掃、利用マナー ■地域振興の計画づくり コミュニティの維持発展 ■基本インフラ アクセス道路、トイレ、駐車場、 ゴミ処理	■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース				

4.3 ゾーンD: 湖岸レクリエーションゾーン (パースアングル④)

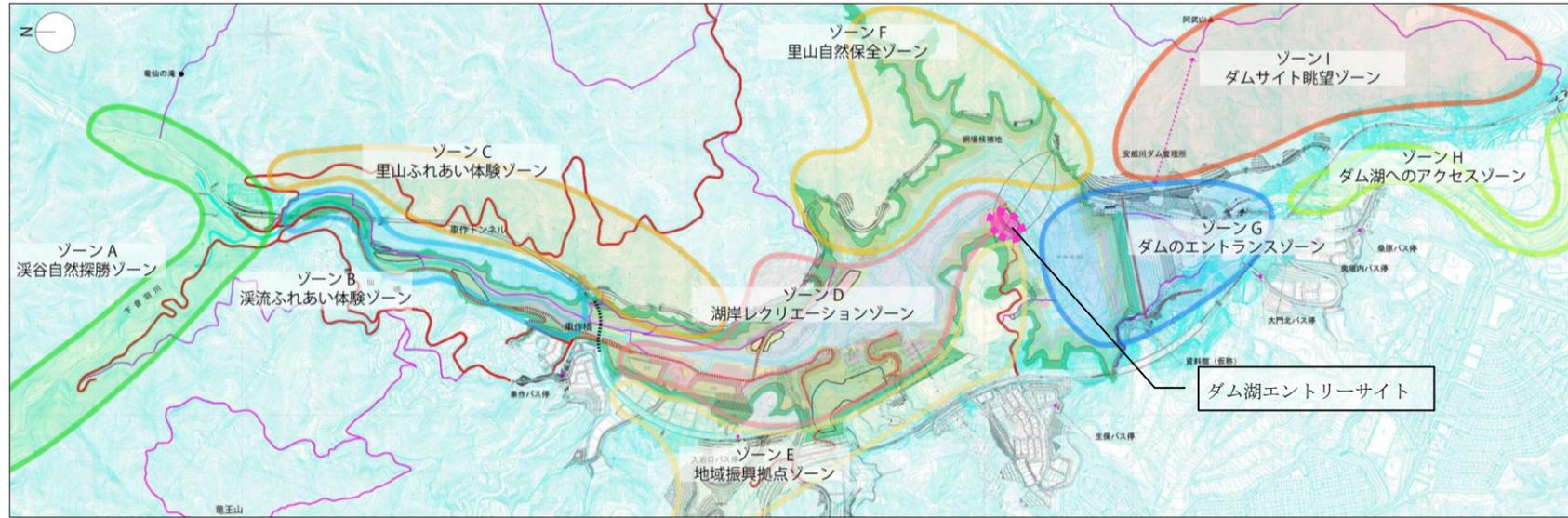


	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動 キャンプ、BBQ・飯ごう炊さん、 ダム周遊コース、アスレチック ■スポーツ (全体利用) 総合アウトドアスポーツ、マラソン、 トレイルラン、トライアスロン ■施設 (その他) シャワー・更衣室、管理施設、 管理倉庫、防災機能、休憩施設 	<ul style="list-style-type: none"> ■広場空間 ・広場 ・野外活動施設・設備 (キャンプ設備、アスレチック等) ■周遊路 ・幅員の広い通路、公道との連続性 ■施設 ・管理施設、更衣室等 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出水によるダム湖内の冠水頻度 サーチャージ水位 E.L. 125m 以下は洪水時に水没 E.L. 130m 以下は建築物等の制限あり ・求められる機能に適した場所の設定 (面積、形状等) ・広場、周遊路等の機能を満足する場所 ・管理施設 (必要な場合) の配置検討 仮設による整備 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場造成 ・上面整備 (舗装、芝生、階段等) ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、安全柵等) 	<p>①河川区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路、施設等の維持管理 (除草、清掃、伐採等) <p>民間事業者等(占用者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占用者条件の提示 (安全対策、出水後の維持管理等) ・利用ルールづくり (利用範囲、水質、ゴミ、護岸) (河川法順守) ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理 (除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等) <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				<p>②発展整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備 ・周遊路整備 <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物 (管理施設)、インフラ等 	

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営
水域	—	■水辺 ・陸域と連動した水辺空間の活用整備	安全に関する課題 ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域)	①基本整備 基本整備に必要な事前投資 ・測量、設計等 基本的な整備投資 ・軽微な造成 ・その他安全対策整備	①河川区域内 河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)	
その他	■管理運営 安全管理、管理者、ソフトの充実、 ペット、清掃、利用マナー ■基本インフラ アクセス道路、トイレ、駐車場、 ゴミ処理、汚水処理	■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース		②発展整備 民間事業者導入に必要な事前投資 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募	②河川区域外 —	

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営
水域	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺利用 水遊び ■イベント利用 祭り、花火大会、湖面ライブ、 イベント企画・運営 ■公園整備 親水空間 ■施設 (レクリエーション) 子供釣りセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺 ・親水空間 ・水辺へのアプローチ 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測量、設計等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽微な造成 ・その他安全対策整備 	<p>①河川区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) <p>民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占用主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■管理運営 安全管理、管理者、利用マナー、 目的型スポーツ、冬場利用、清掃、 ペット ■地域振興の計画づくり 住民・学生・企業による地域資源 活用、市民参画によるハード整備、 地域交流の拠点 ■基本インフラ 駐車場、アクセス道路、トイレ、 ゴミ処理、汚水処理 	<ul style="list-style-type: none"> ■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース 		<p>②発展整備</p> <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 	<p>②河川区域外</p> <p>—</p>	

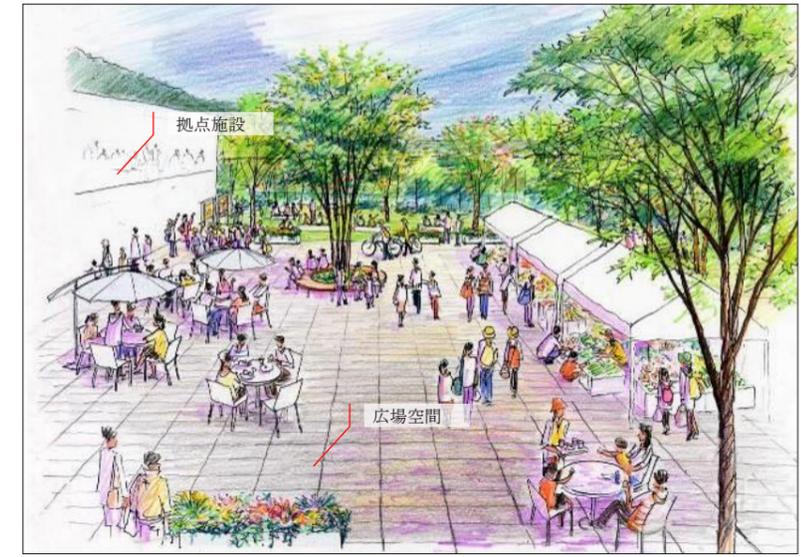
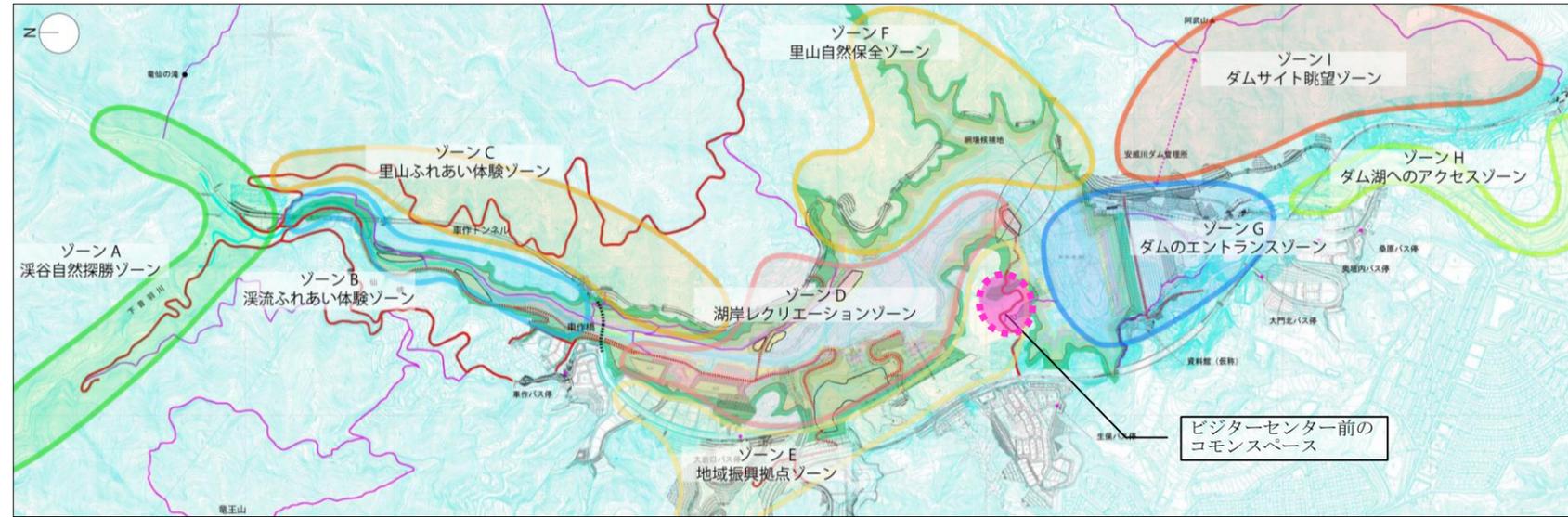
4.3 ゾーンD: ゾーンD: 湖岸レクリエーションゾーン (パースアングル⑧)



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動 BBQ、飯ごう炊さん ■イベント利用 祭り、花火大会、湖面ライブ、 イベント企画・運営 ■観光 レジャー拠点、湖を活かした観光 ■自然環境づくり ビオトープ ■施設 (その他) シャワー・更衣室、管理倉庫、 防災機能、AED 	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動空間 ・小広場 ・水辺へのアプローチ ・洗い場 ■施設 ・管理施設、更衣室等 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出水によるダム湖内の冠水頻度 サーチャージ水位 E.L. 125m 以下は洪水時に水没 E.L. 130m 以下は建築物等の制限あり 濁水や洪水の時期以外は概ね常時満水 E.L. 99.4m に保たれる ・求められる機能に適した場所の設定 (面積、形状等) 小広場等の機能を満足する場所 ・管理施設 (必要な場合) の配置検討 仮設による整備 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場造成 ・水辺へのアプローチ ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、安全柵等) 	<p>①河川 区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路、施設等の維持管理 (除草、清掃、伐採等) <p>民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占有主体の設定 ・占有者条件の提示 (安全対策、出水後の維持管理等) ・利用ルールづくり (利用範囲、水質、ゴミ、護岸) (河川法、砂防法順守) ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理 (除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等) <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				<p>②発展 整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備 <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・既存環境のポテンシャル調査による活用エリアの設定 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物 (管理施設)、インフラ等 	<p>②河川 区域外</p> <p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 ・民間サービス提供に伴う管理運営 <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営
水域	<p>■湖利用 ウォータースポーツ、ダイビング、 水と光のアート、水上アート、 船系遊び、浮き桟橋、湖面道路、</p> <p>■水辺利用 釣り、魚獲り</p> <p>■自然環境づくり ビオトープ</p> <p>■イベント利用 祭り、花火大会、湖面ライブ、 イベント企画・運営</p> <p>■施設 (レクリエーション) ボート競技</p> <p>■観光 ダム湖クルージング、 湖を活かした観光</p>	<p>■水辺 ・水辺へのアプローチ ・船着き場 ・係留施設 ・浮桟橋 ・サイン (利用区域の明示)</p>	<p>安全に関する課題 ・ダム湖内の出水時の安全性の検討</p> <p>各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域)</p>	<p>①基本 整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資 ・測量、設計等</p> <p>基本的な整備投資 ・水辺へのアプローチ ・その他安全対策整備</p>	<p>①河川 区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理) ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等)</p> <p>民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占有主体の設定 ・占有者条件の提示 ・利用ルールづくり ・水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等)</p> <p>地元との連携 ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)</p>	
その他	<p>■管理運営 安全管理、管理者、利用マナー、 清掃</p> <p>■基本インフラ 駐車場、アクセス道路、トイレ、 ゴミ処理</p>	<p>■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道) ・駐車スペース</p>		<p>②発展 整備</p> <p>民間事業者導入に必要な事前投資 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募</p>	<p>②河川 区域外</p> <p>—</p>	

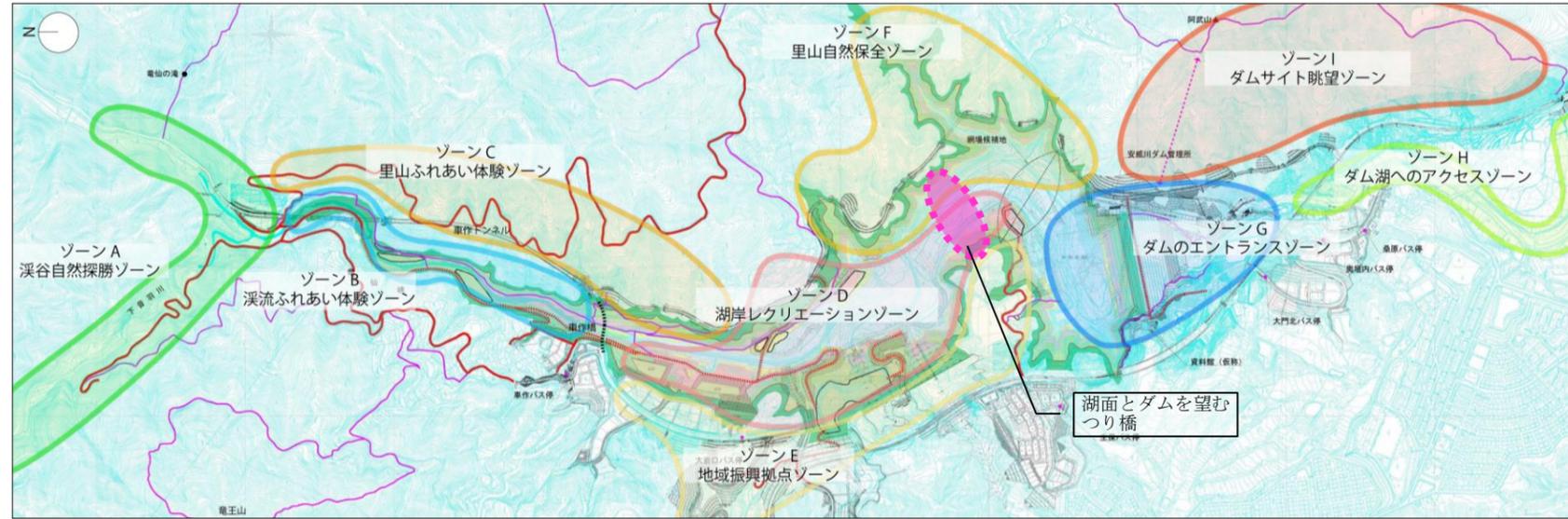
4.4 ゾーンE: 地域振興拠点ゾーン (パースアングル⑥)



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■野外活動 野外活動の場、ダム周遊コース、狩り・ジビエ ■体験・学び 重機の常設展示、断層勉強会、農園、週末菜園、ガーデンショー、阿為神社のけまり、生涯学習の場 ■食育・食体験 地元料理体験、ピザ焼き体験、マルシェ、安威川ダムカレー ■観光 湖を活かした観光、レジャー拠点、リゾートパスポート、バスツアー、エコツアーリズム、歴史名所ツアー、周辺環境の利活用 ■イベント利用 サイクルイベント、イベント企画・運営 ■自然とのふれあい 自然体験 ■施設 (レクリエーション) 木製遊具、野外劇場、展望施設、ボート競技 	<ul style="list-style-type: none"> ■広場空間 ・広場 ・展望、見晴らしスポット ・その他 (遊具等) ■観光名所となりうる景観 ・人工物 (つり橋、ダム) ・植栽 (サクラ、モミジ等) 	<p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる機能に適した場所の選定(面積、形状等) 広場、眺望等の機能を満足する場所 ・土地利用の設定 都市公園等の設定の有無 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂防法、森林法、バリアフリー新法、都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 ・土地買収等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場造成 ・上面整備 (舗装、芝生、階段等) ・展望、遊具等施設、植栽の整備 ・トイレ、インフラ、アクセス道の整備 	<p>①河川区域内</p> <p>—</p>
				<p>②発展整備</p> <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光スポット計画における基礎調査 来場者想定、規模設定等 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ等 	<p>②河川区域外</p> <p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 ・観光名所としての管理グレードUP ・民間サービス提供に伴う管理運営

	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題				
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営		
陸域	■食育・食体験 地元料理体験、ピザ焼き体験、 マルシェ、安威川ダムカレー ■施設 (飲食) レストラン、カフェ ■施設 (販売) 道の駅・水の駅、直売所 ■施設 (情報発信) 拠点施設、情報案内、広報室、 災害情報発信、安威川歴史館、 環境情報・学習施設 ■施設 (レクリエーション) 宿泊施設、アーティストレジデンス、 レンタルショップ・レンタル倉庫、 展望施設、茶室、温泉、古民家移設 ■施設 (その他) 管理倉庫、休憩施設、防災機能、 シャワー・更衣室、ログハウス、 AED、EV充電ステーション	■拠点施設 ・飲食・調理、情報案内、展示、宿泊、 販売、倉庫、更衣室、防災等の施設・ 設備	土地利用に関わる課題 ・建築物 (拠点施設) の配置検討 地形、景観等の条件を満足する場所 ・施設内容の設定 入れるべき機能、設備 各種法令制限に関する課題 建築基準法、バリアフリー新法、 都市計画法 (市街化調整区域)	①基本整備	基本整備に必要な事前投資 ・施設配置のための調査、測量、設計等 基本的な整備投資 ・造成、基盤整備	①河川 区域内	—
				②発展整備	民間事業者導入に必要な事前投資 ・拠点施設計画における基礎調査 来場者想定、規模設定、 競合施設・事例調査等 ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 民間サービス施設整備に伴う整備投資 インフラ等	②河川 区域外	民間事業者等による管理 ・民間サービス提供に伴う管理運営 地元との連携 ・雇用、運営体制づくり
陸域	■基本インフラ 駐車場	■駐車場	土地利用に関わる課題 ・配置、規模の設定 施設規模に応じた駐車台数 地形、アクセス性等の条件を満足する場所 各種法令制限に関する課題 駐車場法	①基本整備	基本整備に必要な事前投資 ・規模 (必要駐車台数) の算定 ・土地利用のための調査、測量、設計	①河川 区域内	—
				②発展整備	・自動車管理に必要な施設整備	②河川 区域外	・管理運営主体の設定
水域	—	—	—	—	—	—	—
その他	■管理運営 安全管理、ソフトの充実、ペット、 利用マナー、パークアンドライド ■交通の計画・実践 シャトルバス、アクセス、 超小型モビリティ ■イベント利用 第二名神道路でイベント ■地域振興の計画づくり 市民参画によるハード整備、 産地生産セミナーと物産コーナー 地域交流の拠点 ■その他 宣伝・情報発信、施設名称、 斜面 (護岸) 利用、バリアフリー、 マイクロ発電 ■基本インフラ トイレ	■その他 ・アクセス道 ・トイレ ・インフラ (電気、水道、下水道、ガス)					

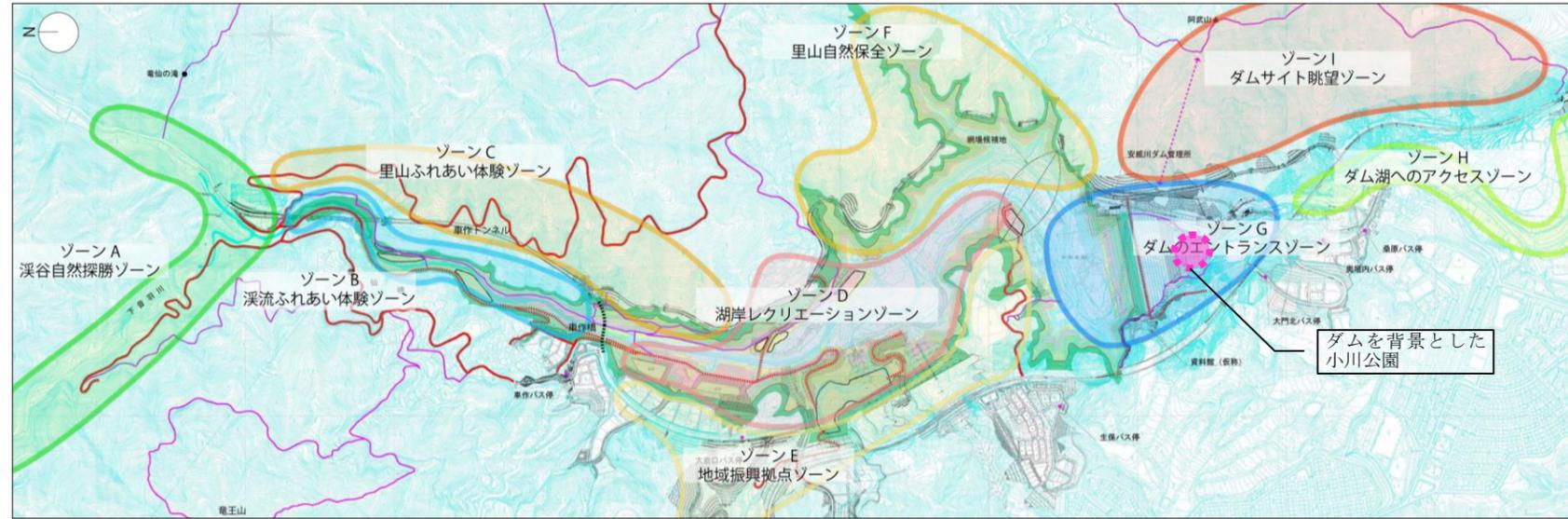
4.5 ゾーンF：里山自然保全ゾーン（パースアングル⑦）



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題		
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■観光 バスツアー、トロッコ列車、橋のライトアップ、桜と紅葉の名所、湖を活かした観光 ■イベント利用 祭り、花火大会、湖面ライブ、イベントの企画・運営 ■湖上利用 気球遊覧、飛ぶ系遊び ■施設 (レクリエーション) 釣り橋、展望施設 ■施設 (情報発信) 情報案内 ■施設 (その他) 休憩施設、防災機能 	<ul style="list-style-type: none"> ■広場空間 ・小広場 ・休憩施設 (ベンチ等) ・案内サイン ■施設 ・釣り橋 ・展望施設 (展望場所) ■観光名所となりうる景観 ・人工物 (釣り橋、ダム) ・植栽 (サクラ、モミジ等) 	<p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釣り橋の配置検討 ダム水位、地形、アクセス性、橋の形状眺望、開電鉄塔との位置関係等の検討 ・求められる機能に適した場所の選定(面積、形状等) 広場、眺望等の機能を満足する場所 ・土地利用の設定 都市公園等の設定の有無 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <p>河川法、砂防法、森林法、都市計画法 (市街化調整区域)、近畿圏の保全区域の整備に関する法律 (近郊緑地保全区域)</p>	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 ・土地買収等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釣り橋の整備 ・広場造成 ・上面整備 (舗装、芝生、階段等) ・案内サイン、ベンチ等施設、植栽の整備 ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、最小限の安全柵等) ・トイレ、インフラ、アクセス道、駐車スペースの整備 	<p>①河川区域内</p>
				<p>②発展整備</p>	<p>②河川区域外</p> <p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 ・イベントの管理運営 ・観光名所としての管理グレードUP

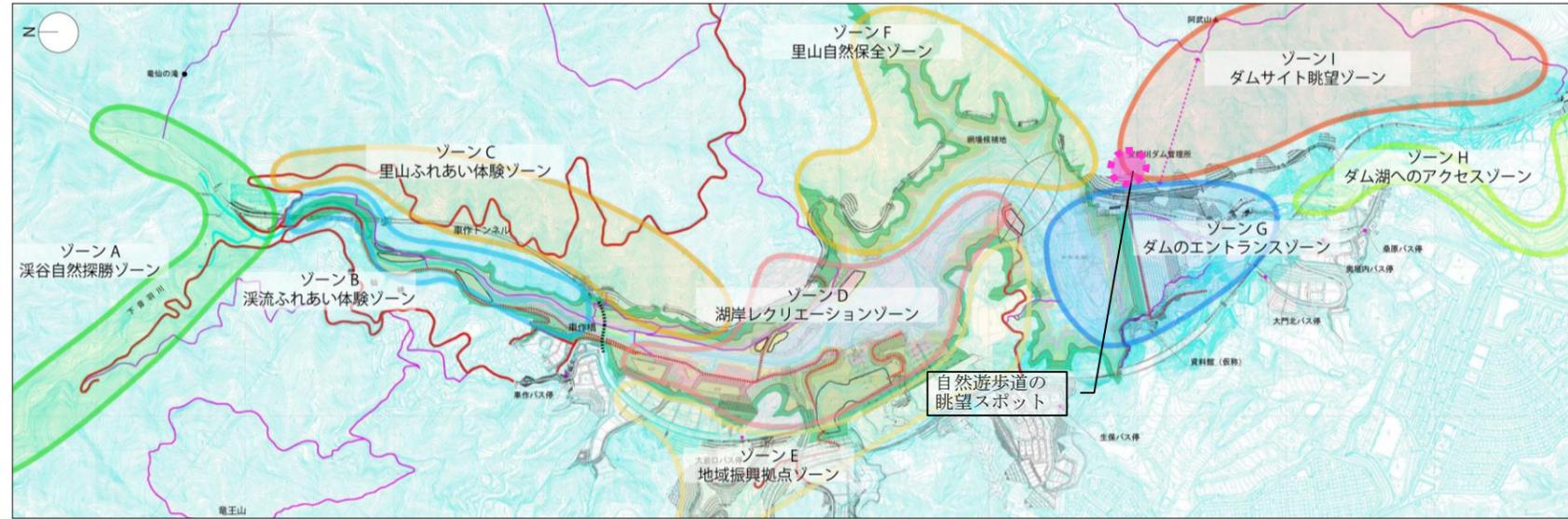
	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)		管理運営
水域	■観光 ダム湖クルージング、 湖を活かした観光 ■イベント利用 祭り、花火大会、湖面ライブ、 イベントの企画・運営 ■湖上利用 気球遊覧、飛ぶ系遊び	■水辺 <ul style="list-style-type: none"> 水辺へのアプローチ 小広場 船着き場 係留施設 浮棧橋 サイン (利用区域の明示) 	安全に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ダム湖内の出水時の安全性の検討 各種法令制限に関する課題 河川法、砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域)、 近畿圏の保全区域の整備に関する法律 (近郊緑地保 全区域)	①基本 整備	基本整備に必要な事前投資 <ul style="list-style-type: none"> 測量、設計等 基本的な整備投資 <ul style="list-style-type: none"> 水辺へのアプローチ その他安全対策整備 	①河川 区域内 河川管理者による管理(一般的な河川管理) <ul style="list-style-type: none"> 水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理) <ul style="list-style-type: none"> 行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) 河川準則手続き 特区指定 河川占用主体の設定 占有者条件の提示 利用ルールづくり 水域の管理 (除草、清掃、出水後の維持管理等) 地元との連携 <ul style="list-style-type: none"> 地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)
				②発展 整備	民間事業者導入に必要な事前投資 <ul style="list-style-type: none"> 事業可能性調査 民間サービス施設整備事業者の公募 	
その他	■交通の計画・実践 渡し船、シャトルバス、アクセス、 超小型モビリティ ■その他 斜面 (護岸) 利用	■その他 <ul style="list-style-type: none"> アクセス道 トイレ インフラ (電気、水道、下水道) 駐車スペース 				

4.6 ゾーンG：ダムのエントランスゾーン、ゾーンH：ダム湖へのアクセスゾーン（パースアングル⑨）



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題				
			計画条件（自然条件含む）	整備項目（投資）	管理運営		
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■ダム本体の利用 ダム頂上部遊歩道、ダム見学ツアー、ダム頂上部イベント、ダム勉強会、ダムプロジェクトマップ、ダムネーミング、ネームプレート、ダム壁画、転流トンネルワインセラー ■自然環境づくり ビオトープ、植林、地域植生の保全 ■イベント利用 イベント企画・運営 ■観光 桜と紅葉の名所、安威川にしかない目玉 ■スポーツ（広場利用） グラウンドゴルフ（認定）コース ■公園整備 多目的な芝生広場、子供の遊び場、プレイパーク、親水空間、植林、間伐材の活用 ■施設（レクリエーション） せせらぎ川、木製遊具、ツリーハウス ■施設（その他） 自然エネルギー、廃材で作る小屋 	<ul style="list-style-type: none"> ■広場空間 ・広場 ・せせらぎ ・植栽（サクラ、モミジ等） ・遊具等 ■遊歩道 ・ダム本体の利用動線、上流部との連続性 ■自然環境と触れ合える空間 ・現況の溪流環境を活かした整備 	<p>安全に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖内の出水時の安全性の検討 <p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる機能に適した場所の設定（面積、形状等） 広場、遊歩道等の機能を満足する場所 ・アクセス道路、給排水電気等の引込み <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川法、砂防法、森林法、都市計画法（市街化調整区域） 	<p>①基本整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場造成 ・上面整備（舗装、芝生、階段等） ・せせらぎ、植栽整備 ・出水時避難ルート、サイレン等の整備 ・その他安全対策整備（サイン、安全柵等） 	<p>②発展整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、駐車スペースの整備 ・インフラ、アクセス道の整備 ・遊歩道の整備 <p>民間事業者導入に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業可能性調査 ・民間サービス施設整備事業者の公募 <p>民間サービス施設整備に伴う整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物（管理施設）、インフラ等 	<p>①河川区域内</p> <p>河川管理者による管理(一般的な河川管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路、施設等の維持管理（除草、清掃、伐採等） <p>民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担（法的位置づけ等） ・河川準則手続き ・特区指定 ・河川占有主体の設定 ・占有者条件の提示（安全対策、出水後の維持管理等） ・利用ルールづくり（利用範囲、水質、ゴミ、護岸）（河川法、砂防法順守） ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理（除草、清掃、伐採、駐車場、トイレ等） <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力（清掃等の管理委託） 	<p>②河川区域外</p> <p>—</p>
水域	—	—	—	—	—	—	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■管理運営 ダムを見る仕組み、冬場利用、安全管理 	—	—	—	—	—	

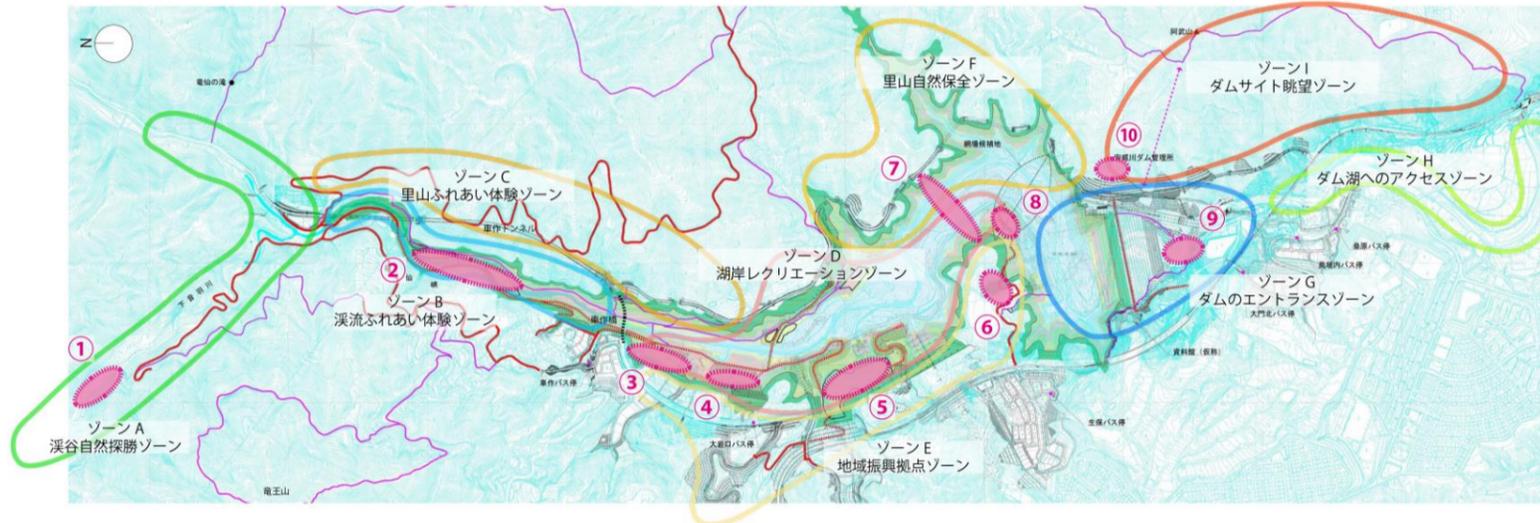
4.7 ゾーンI: ダムサイト眺望ゾーン (パースアングル⑩)



	キーワード (地元、市民ワークショップ、 専門家等意見)	求められるハード	課題			
			計画条件 (自然条件含む)	整備項目 (投資)	管理運営	
陸域	<ul style="list-style-type: none"> ■自然とのふれあい 自然散策、自然観察、昆虫採集 ■自然環境づくり 里山保全、自然保護 ■観光 エコツアーリズム、桜と紅葉の名所 ■ダム本体の利用 ダムプロジェクションマッピング、 ダム壁画 ■施設 (レクリエーション) 展望施設 ■施設 (その他) ロープウェイ 	<ul style="list-style-type: none"> ■遊歩道 ・遊歩道 ・植栽 (サクラ、モミジ等) ■眺望スポット ・展望台 (展望場所) 	<p>土地利用に関わる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる機能に適した場所の設定 広場、眺望等の機能を満足する場所 ・遊歩道ルートの設定 既存環境のポテンシャル、安全性、周辺とのネット ワーク等を考慮したルートの選定 <p>各種法令制限に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂防法、森林法、 都市計画法 (市街化調整区域) 	<p>①基本 整備</p> <p>基本整備に必要な事前投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用のための調査、測量、設計 ・土地買収等 <p>基本的な整備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽微な造成、危険個所の補修 遊歩道整備 ・植栽の整備 ・その他安全対策整備 (サイン、最小限の安全柵等) 	①河川 区域内	—
水域	—	—	—	—	—	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■管理運営 安全管理、利用マナー 	—	—	<p>②発展 整備</p> <p>高度利用のための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道の整備 	②河川 区域外	<p>民間事業者等による管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の役割分担 (法的位置づけ等) ・アクセス道路、施設等の維持管理 <p>地元との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等の管理協力 (清掃等の管理委託)

5. 地元、市民ワークショップ、専門家等が求めるハード、および課題のまとめ

安威川ダム周辺整備基本方針に示された各ゾーンの方針、前章で整理した地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ（キーワード）、および求められるハードの内容をゾーンごとに整理する。また、実現にあたっての主な課題の内容をまとめる。



- ① **みどりに包まれた権内せせらぎ広場**
木々に包まれたせせらぎと、隣接する原っぱを活用した自然を満喫できる広場空間。
- ② **自然を楽しむ学びの川原**
水辺の広場を活用し、豊かな水とみどりに出会うことができる親水空間。
- ③ **車作橋を望むアウトドアスポーツフィールド**
様々なフィールドスポーツを楽しむことができる水辺のプレイグラウンド。
- ④ **水辺のオートキャンプサイト**
市街地からのアクセス性が良い立地を生かした、手軽に自然を満喫することができるオートキャンプサイト。
- ⑤ **湖面を望むレクリエーションパーク**
BBQやピクニック、デイキャンプなどファミリーや仲間たちとの交流や、各種祭り・イベントなど多様な活動が可能なレクリエーションパーク。
- ⑥ **ビジターセンター前のコモンスペース**
拠点施設とともに様々な日常利用や季節のイベント・活動を支えるにぎわいのスペース。
- ⑦ **湖面とダムを望むつり橋**
ダム周辺エリアの回遊性を高めるとともに、ダムと湖面の風景を水上から楽しむことができる湖面橋。
- ⑧ **ダム湖エントリーサイト**
拠点施設から湖面へと続くアクセス路と水辺の広場を整備。様々な湖面利用の起点となる水辺のエントリー空間。
- ⑨ **ダムを背景とした小川公園**
ダム貯水池からの放流水を引き、かつてあった川の流れを再現したせせらぎ公園。
- ⑩ **自然遊歩道の眺望スポット**
眼下に広がる自然とダム堤体を眺望することができる遊歩道沿いの休憩スポット。

ゾーン A: 溪谷自然探勝ゾーン

(パースアングル①)

■環境寄与（保全）の方針

- ・下音羽川、安威川上流の溪谷と森林の自然環境を保全することに重点を置きます

■環境享受（活用）の方針

- ・既存の自然歩道を利用し、沿道に歴史資源（深山水路）、伝統文化体験施設（炭窯）などと連携した小規模な空間整備を目指します

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・自然とのふれあい
- ・自然環境づくり
- ・イベント利用
- ・水辺利用、支流利用 等

■求められるハード

- ・野外活動空間
- ・水辺整備 等



ゾーン B: 溪流ふれあい体験ゾーン

(パースアングル②)

■環境寄与（保全）の方針

- ・竜仙峡に代表される溪流環境を引き続き保全することに重点を置きます

■環境享受（活用）の方針

- ・既存のアユ・アマゴ等の溪流釣り場との連携や小規模な面的整備など、溪流に近づけるような工夫を行い、溪流及びその周辺での余暇を楽しめる空間となります（空間用途を広げることで、付加価値を高めます）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・自然とのふれあい
- ・自然環境づくり
- ・野外活動
- ・水辺利用、支流利用 等

■求められるハード

- ・野外活動空間
- ・遊歩道
- ・水辺整備 等



ゾーン C: 里山ふれあい体験ゾーン

■環境寄与（保全）の方針

- ・山林空間や棚田・ため池空間を良好に保全することを基本とします

■環境享受（活用）の方針

- ・既存自然歩道（林道）沿いの場所を選び、ダム湖を眺望する箇所を整備し付加価値を高めます
- ・周辺の里山内の里道を整備することにより、左岸道路や湖面とのアクセス機能を高めます（里山保全活動や棚田を利用した体験農業の場となります）

ゾーンD: 湖岸レクリエーションゾーン

■環境寄与（保全）の方針

- ・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります
- ・水際は柔らかい草の植生が確保されるように努め、水生生物の生息環境の確保に配慮します

■環境享受（活用）の方針

- ・平坦な利用可能地があり、ゾーンEと併せてダム湖周辺の拠点ゾーンとします
- ・右岸側の造成平地は1/30年確率以上の冠水範囲であり、水際から遠い反面、眺望が期待できることから、利用者ニーズに合わせた整備を図ります（駐車場や小規模な建物等）
- ・左岸側の平坦地は、左岸側拠点としての整備も考慮します

（パースアングル③）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・野外活動、スポーツ
- ・公園整備
- ・施設（飲食、情報発信、管理施設等）等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・周遊路
- ・施設（飲食、情報発信、管理施設等）
- ・水辺整備 等



（パースアングル⑤）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・野外活動、スポーツ
- ・イベント利用
- ・食育・食体験
- ・水辺利用
- ・公園整備
- ・施設（レク、飲食、販売、管理施設等）等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・周遊路
- ・施設（レク、飲食、販売、管理施設等）
- ・水辺整備 等



（パースアングル④）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・野外活動、スポーツ
- ・施設（管理施設等）等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・周遊路
- ・施設（管理施設等）
- ・水辺整備 等



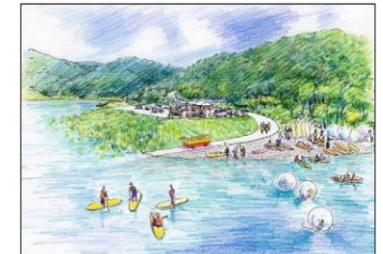
（パースアングル⑧）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・野外活動
- ・湖面利用、水辺利用
- ・観光
- ・イベント利用
- ・自然環境づくり
- ・施設（レク、管理施設等）等

■求められるハード

- ・野外活動空間
- ・施設（レク、管理施設等）
- ・水辺整備 等



ゾーンE: 地域振興拠点ゾーン

■環境寄与（保全）の方針

- ・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります
- ・付替府道（茨木亀岡線）に接し、かつダム湖畔の景観を構成する主要ゾーンとなりますので、周辺環境への影響をできるだけ緩和し、景観に調和したものとなるように配慮します
- ・将来活用を予定している区域についても、暫定的に花畑や草原、芝生広場とするなど、緑化や景観的配慮を図ります

■環境享受（活用）の方針

- ・付替府道（茨木亀岡線）沿いのゾーンであり、ダム湖畔への集客や来訪者へのサービスを目的とした施設配置を考慮します
- ・地域振興に寄与する内容規模の民間開発を誘導します
- ・周辺農地は、地域住民の協力を得て、食材の供給や体験農業の場としての利用も考慮します

（パースアングル⑥）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・野外活動
- ・体験・学び、食育・食体験
- ・観光
- ・イベント利用
- ・自然とのふれあい
- ・施設（レク、飲食、販売、情報発信、管理施設等）等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・景観整備
- ・拠点施設
- ・駐車場 等



ゾーンF: 里山自然保全ゾーン

■環境寄与（保全）の方針

- ・湖面へ流入する溪流は良好な自然環境を有しており、現況保全に重点を置きます
- ・左岸道路を除き湖面から山地にかけて現況森林が残される箇所であり、景観緑地としての良好な保全に配慮し、積極的な山林空間の利用は基本的に制限します

■環境享受（活用）の方針

- ・自然環境保全活動を行い、利用については従来程度にとどめるものとします

（パースアングル⑦）

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・観光
- ・イベント利用
- ・湖上利用
- ・施設（レク、情報発信等）等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・景観整備
- ・つり橋
- ・施設（レク、情報発信等）
- ・水辺整備 等



ゾーンG:ダムのエントランスゾーン

(パースアングル⑨)

■環境寄与（保全）の方針

- ・自然環境が改変された部分は早急に自然再生や自然創出を図ります
- ・ダム完成時、暫定的に花畑、草原、芝生広場とするなど、緑化や景観的な配慮を図ります

■環境享受（活用）の方針

- ・レクリエーション空間としての整備の他、ダム堤体を含む施設見学に配慮した整備を目指します
- ・ダム直下と天端付近からダム上流との歩行者動線が確保できるような整備を考慮します

ゾーンH:ダム湖へのアクセスゾーン

■環境寄与（保全）の方針

- ・ダム直下の洪水吐からつながる河川については、現在の溪流環境の保全に努めます

■環境享受（活用）の方針

- ・下流部については、残土処分地の整備や河道改修と合わせた自然環境の創造や保全、川沿い及び集落やさらに下流河川とのネットワーク形成を目指します
- ・周辺農地は、地域住民の協力を得て、食材供給地としての活用も考慮します

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・ダム本体の利用
- ・自然環境づくり
- ・観光
- ・イベント利用
- ・スポーツ
- ・公園整備
- ・施設（レク等） 等

■求められるハード

- ・広場空間
- ・遊歩道
- ・自然環境と触れ合える空間 等



ゾーンI:ダムサイト眺望ゾーン

(パースアングル⑩)

■環境寄与（保全）の方針

- ・良好な植林地としての現在の山林環境の保全に重点を置きます

■環境享受（活用）の方針

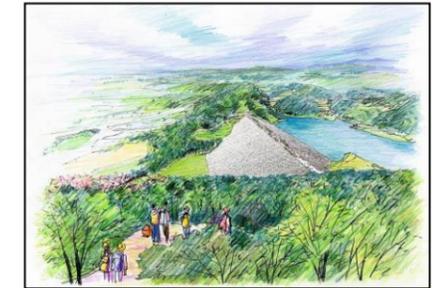
- ・阿武山古墳や武士自然歩道（明智街道）といった既存の歴史資源を保全し、休憩施設を兼ねた眺望箇所を整備し、付加価値を高めます（里山保全活動の場となりえます）
- ・阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線を確保します

■地元、市民ワークショップ、専門家等が求める空間イメージ

- ・自然とのふれあい
- ・自然環境づくり
- ・観光
- ・ダム本来の利用
- ・施設（レク等） 等

■求められるハード

- ・遊歩道
- ・眺望スポット 等



課題のまとめ

視点1:計画条件設定のための課題

安全に関する課題

- ・ダム湖内の出水時の安全性の検討

土地利用に関わる課題

- ・出水によるダム湖内の冠水頻度（E.L. 130m以下の建築物等の制限など）
- ・求められる機能に適した場所の設定（面積、形状など）
- ・施設（建築物）、つり橋等の配置検討
- ・アクセス道路、給排水電気等の引込み

各種法令制限に関する課題

- ・河川法、砂防法、森林法、都市計画法（市街化調整区域）など

視点2:整備(投資)項目設定のための課題

①基本整備

基本整備に必要な事前投資

- ・土地利用のための調査、測量、設計など
- ・土地買収など

基本的な整備投資

- ・危険個所の補修、整備
- ・造成、つり橋等の基盤となる整備
- ・その他上面整備（舗装、芝生、階段等）、植栽など
- ・出水時避難ルート、サイレン等の安全対策整備

②発展整備

高度利用のための整備

- ・トイレ、駐車スペースなど
- ・インフラ、アクセス道の整備
- ・遊歩道、周遊路等の整備

民間事業者導入に必要な事前投資

- ・観光スポット、拠点施設計画における基礎調査
- ・事業可能性調査
- ・既存環境のポテンシャル調査による活用エリアの設定
- ・民間サービス施設整備事業者の公募

民間サービス施設整備に伴う整備投資

- ・建築物、インフラなど

視点3:管理運営に関する課題

①河川区域内

河川管理者による管理(一般的な河川管理)

- ・管理用通路、施設等の維持管理
- ・水域の管理

民間事業者等(占有者)による管理(高度な管理)

- ・行政と民間の役割分担（法的位置づけなど）
- ・河川準則手続き、特区指定
- ・河川占用主体の設定、占有者条件の提示、利用ルールづくり
- ・アクセス道路、施設等の高度な維持管理
- ・水域の管理

地元との連携

- ・地元自治会等の管理協力（清掃等の管理委託）

②河川区域外

民間事業者等による管理

- ・行政と民間の役割分担（法的位置づけなど）
- ・アクセス道路、施設などの維持管理
- ・イベントの管理運営
- ・観光名所としての管理グレードアップ
- ・民間サービス提供に伴う管理運営

地元との連携

- ・地元自治会等の管理協力（清掃等の管理委託）